Canon

ワイヤレスファイルトランスミッター

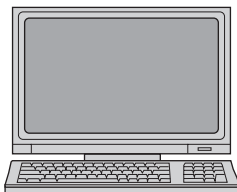
WFT-E5

WFT-E5は、世界各地域の電波に関する法律に準拠するため、使用可能な地域別に4種類のWFT-E5（A/B/C/Dタイプ）を販売しています（p.8）。本文中の製品名称では、A/B/C/Dタイプを付けずに、単に「WFT-E5」として説明しています。

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E5は、無線LAN、有線LAN機能と拡張用USB端子を備えたEOS 7D用アクセサリーで、下記のことを行うことができます。また、縦位置撮影に便利な、縦位置撮影用シャッターボタンなどを備えています。

無線／有線LAN機能

FTP転送

FTPサーバーへの画像転送

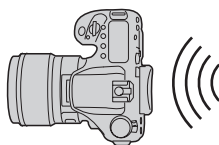
EOS Utility

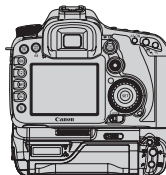
EOS Utilityでリモート撮影と画像の閲覧／取り込み

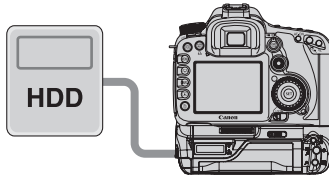
WFTサーバー

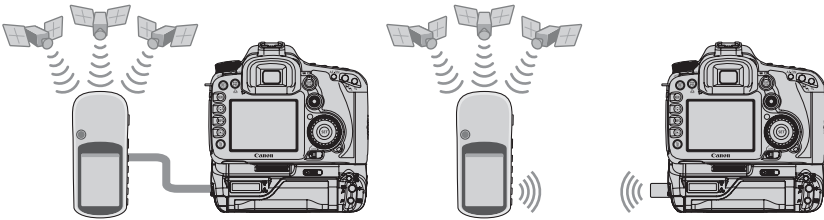
Webブラウザーでリモート撮影と画像の閲覧／取り込み

メディアサーバー

DLNA対応テレビなどで画像を閲覧

連動撮影

マスターカメラに連動させて、スレーブカメラを無線でレリーズ

USB接続機能

外部メディア

外部メディアへの画像の記録／バックアップ

GPS

USBケーブルで接続

Bluetoothで接続

撮影場所の「緯度、経度、標高、日付時刻」などの情報を画像に付加

本使用説明書上のおことわり

- 本書は、無線LAN、または有線LANと、FTPサーバーに関する設定が完了していることを前提に説明を行っています。これらの設定方法については、お使いの機器の各メーカーへお問い合わせください。
- 本文中の［　］内の語句は、パソコン画面上に表示されるボタン名称や、アイコン名称などを示しています。また、カメラのメニューに表示される内容を示しています。
- 本文中の（p.＊＊）の＊＊部は、参照ページを示しています。
- カメラの操作については、カメラの使用説明書をお読みになり、操作方法を理解していることを前提に説明しています。
- 本文中の以下のマークの付いた欄は、それぞれ次のような内容について説明しています。

　: 使用する際に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。

　: 基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

本機で画像転送やリモート撮影、画像の閲覧などを行うためには、無線LAN、有線LANとFTPサーバーの設定方法に関する十分な知識が必要です。
無線LAN、有線LANとFTPサーバーの設定方法に対して、弊社ではサポートできませんので、あらかじめご了承ください。
本機を使用するために、FTPサーバーを含むネットワークに対して、誤った設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、本機を使用した結果生じた損害に対しましても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。

章目次

目　次

使用可能な地域と制限事項

- WFT-E5は、世界各地域の電波に関する法律に準拠するため、下記4種類のWFT-E5（A/B/C/Dタイプ）を販売しています。製品名称（タイプ）に対応した使用地域以外では、使用できませんのでご注意ください。
  その他の使用できる地域については、お客様相談窓口にお問い合わせください。

製品名称（タイプ）	使用可能地域	無線LAN規格と対応チャンネル	
WFT-E5A	アメリカ合衆国、カナダ、シンガポール、香港特別行政区	IEEE 802.11a	36～64ch 149～165ch
		IEEE 802.11b/g	1～11ch
WFT-E5B	日本、フランス、イタリア、ドイツ、イギリス、ベルギー、オランダ、ルクセンブルグ、アイルランド、デンマーク、ギリシャ、スペイン、ポルトガル、オーストリア、フィンランド、スウェーデン、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、チェコ、スロバキア、スロベニア、エストニア、ラトビア、リトアニア、キプロス、マルタ、アイスランド、ノルウェー、スイス、リヒテンシュタイン、オーストラリア、ニュージーランド、ロシア、香港特別行政区	IEEE 802.11a	36～64ch 100～140ch
		IEEE 802.11b/g	1～13ch
WFT-E5C	中華人民共和国、香港特別行政区	IEEE 802.11a	149～161ch
		IEEE 802.11b/g	1～13ch
WFT-E5D	上記の全地域で使用可能	IEEE 802.11a	非対応
		IEEE 802.11b/g	1～11ch

- フランスでは屋外での使用が禁止されています。
- 中華人民共和国では、地域によって屋外使用時に許可が必要です。

IEEE 802.11a無線LANの使用制限について

IEEE 802.11aの無線LANは、下記表の灰色で示したチャンネルの条件では使用できません。これは、各使用可能地域の法律によって定められていますので、厳守してください。
なお、青色で示したチャンネルの条件では使用できます。黄色で示したチャンネルは、一部使用制限がありますので、表の注釈をお読みください。

		無線LAN接続方法	チャンネル		
WFT-E5A	屋内	インフラストラクチャー	36~48	52~64	149~165
		アドホック	36~48	52~64	149~165
	屋外	インフラストラクチャー	36~48	52~64	149~165
		アドホック	36~48	52~64	149~165
WFT-E5B	屋内	インフラストラクチャー	36~48	52~64	100~140
		アドホック	36~48	52~64	100~140
	屋外	インフラストラクチャー	36~48	52~64*J	100~140
		アドホック	36~48	52~64	100~140
WFT-E5C			149~161*C		

*J：日本では、52～64チャンネルは屋外で使用禁止です。
*C：中華人民共和国では、地域によって屋外使用時に許可が必要です。

- 次の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。「本製品を分解、改造すること」、「本製品上の証明ラベルをはがすこと」。
- 医療用の装置や、電子機器の近くで本製品を使用しないでください。医療用の装置や、電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。
- 本製品に対応するEOS DIGITALカメラとの組み合わせで使用してください。その他の製品と組み合わせた場合の故障、事故などについては、当社保証の対象外となります。
- 本製品は、この使用説明書で説明している無線LAN、有線LAN機器として使用してください。万一、その他の用途に使用したことにより損害が発生した場合、当社は、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。
また、使用する電池と充電器、およびACアダプターキットの使用説明書に記載されている、安全上の注意に関する内容もよく理解した上でお使いください。

⚠ 警告 下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂の原因となりますので次のことはしないでください。
  - ・ 本体・付属品・接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
- 可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因となります。
- 飛行機内・病院で使用の際は、航空会社・病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。

⚠ 注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性及び物的損害の発生が想定されます。

- 高温状態の車中や熱いものの近くに放置しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもりケースが変化し、火災の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の洗浄に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。

故障・不具合・破損の際は、お求めになった販売店、または最寄りの修理受付窓口にご相談ください。

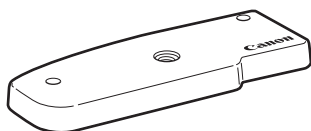
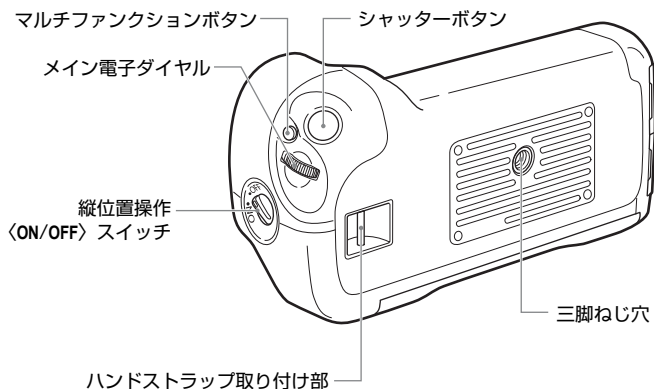
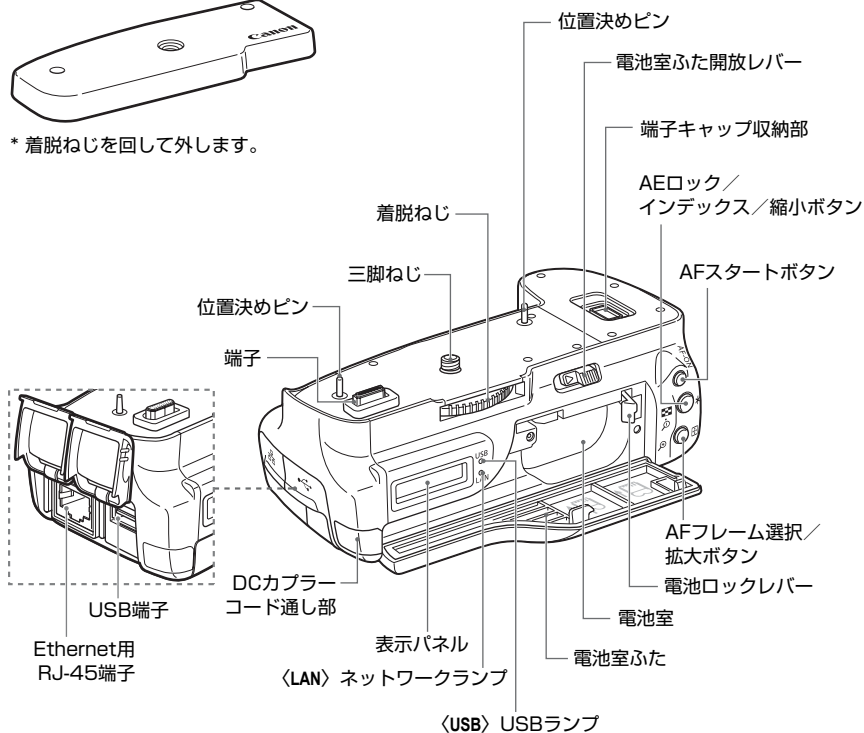
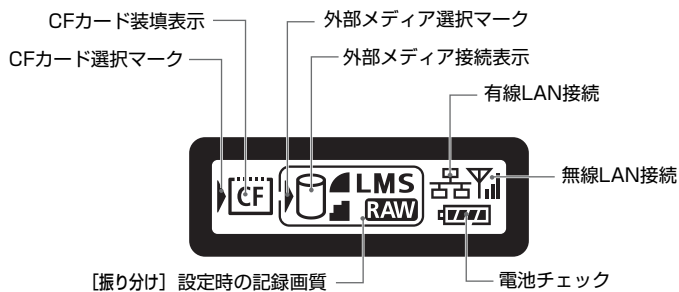
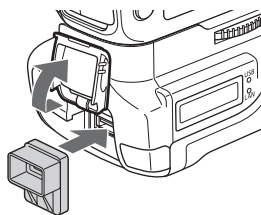
取り扱い上のご注意

- 本製品は精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- 本製品は防水構造になっていませんので、水中では使用できません。
- 水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- 本製品を磁石やモーターなどの強力な磁気を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。本製品の故障の原因となることがありますので、このような場所に本製品を放置しないでください。
- 本製品は有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- 本製品の保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。

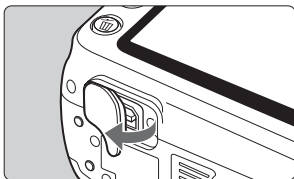
各部の名称

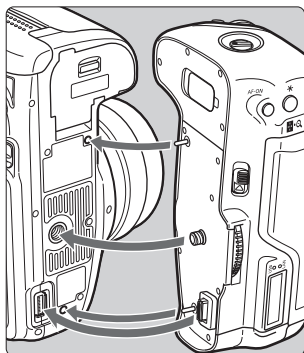
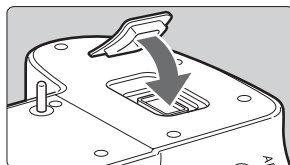
保護カバー

* 着脱ねじを回して外します。

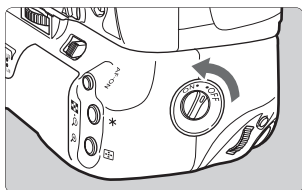
位置決めピン
電池室ふた開放レバー
端子キャップ収納部
AEロック／
インデックス／縮小ボタン
着脱ねじ
三脚ねじ
AFスタートボタン
位置決めピン
端子
AFフレーム選択／
拡大ボタン
電池ロックレバー
DCカプラー
コード通し部
USB端子
電池室
Ethernet用
RJ-45端子
表示パネル
電池室ふた
〈LAN〉ネットワークランプ
〈USB〉USBランプ

表示パネル

USB端子の防滴・防塵キャップ

* 雨天などのときは、このキャップを付けてからUSB端子を差し込みます。

カメラに取り付ける

カメラには、充電済みの電池を入れておきます。また、WFT-E5をカメラに取り付ける前に、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしておきます。なお、WFT-E5には、電源スイッチがありません。カメラの電源スイッチに連動して入／切します。
WFT-E5を取り外すときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてから取り外してください。

1 カメラの端子キャップを外す

- カメラ底面の端子キャップを、めくって取り外します。
- 外した端子キャップは、WFT-E5の「端子キャップ収納部」に取り付けます。

2 WFT-E5を取り付ける

- 図のようにカメラとWFT-E5を重ね合わせ、着脱ねじを回してカメラに取り付けます。

縦位置撮影の操作部材について

縦位置操作〈ON/OFF〉スイッチを〈ON〉にすると、縦位置撮影用のシャッターボタンなどが操作できるようになります。これらの撮影用操作部材は、WFT-E5に電池が入っていなくても操作できます。

ハンドストラップE1の取り付け方

別売のハンドストラップE1は、図のように取り付けます。

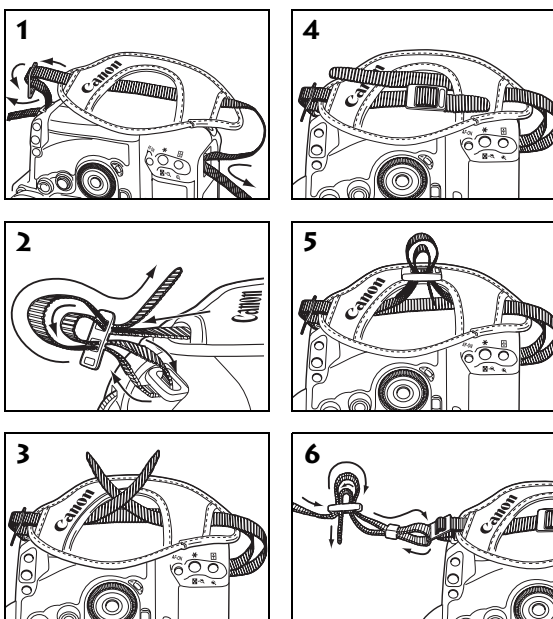
1

4

2

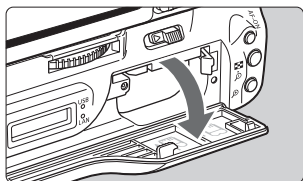
5

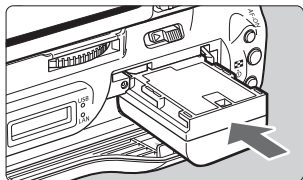
3

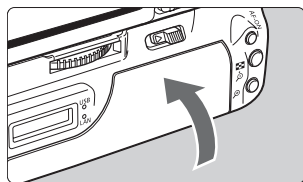
6

ストラップの取り付けが終わったら、留め具部分のたるみを取り、引っ張っても留め具部分がゆるまないことを確認してください。

電池を入れる／取り出す

WFT-E5の電源として、バッテリーパックLP-E6を1個使用します。WFT-E5の電池を交換するときは、WFT-E5の電池室ふたを開ける前に必ずカメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。特に外部メディアやGPS機器、Bluetoothユニットを接続しているときに、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしないままWFT-E5の電池室ふたを開けると、外部メディアやGPS機器、Bluetoothユニットとの接続操作を再度やり直す必要があります。
なお、WFT-E5用の電池は付属していませんので、お持ちでないときは、別途お買い求めください。

入れ方

1 ふたを開ける

● レバーをスライドさせて、ふたを開きます。

2 電池を入れる

● 電池接点の方から入れます。
● ロック位置までしっかりと入れてください。

3 ふたを閉める

●「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

● 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、有限責任中間法人JBRC のホームページをご参照ください。
　ホームページ：http://www.jbrc.com
● プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
● 被覆をはがさないでください。
● 分解しないでください。

電池チェックについて

電池の残量は、カメラの電源を入れたときに表示されます。電池マークが点滅（ ）したら、もうすぐ電池切れになります。

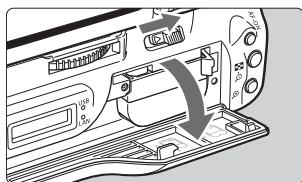
表示						
残量（%）	100～70	69～50	49～20	19～10	9～1	0

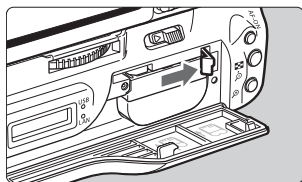
転送可能枚数の目安

約［枚］

LAN	常温（23℃）	低温（0℃）
無線LAN	2300	2300
有線LAN	3000	3000

- フル充電のLP-E6使用時。常温（23℃）、低温（0℃）とも転送可能枚数は、ほぼ同じです。
- CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準に準じた条件で、約6MBの画像を撮影時自動転送した場合。
- 無線LANで連続して画像転送を行うと、転送可能枚数が少なくなります。
- 外部メディアやGPS機器をバスパワーで動作させたり、Bluetoothユニットを使用すると転送可能枚数が少なくなります。

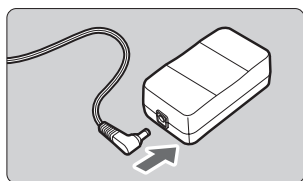
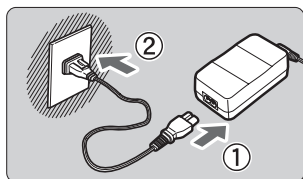
取り出し方

1 ふたを開ける

- レバーをスライドさせて、ふたを開きます。

2 電池を取り出す

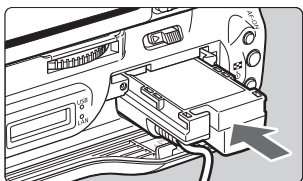
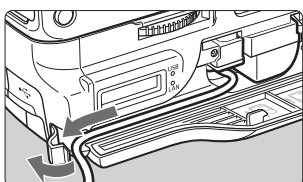
- 電池ロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に保護カバーを取り付けてください。

家庭用電源を使用する

ACアダプターキットACK-E6（別売）を使うと、家庭用電源を使用して電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 DCカプラーのプラグを接続する

● DCカプラーのプラグを、ACアダプターのソケットに接続します。

2 電源コードを接続する

● 電源コードを図のように接続します。
● プラグをコンセントに差し込みます。
● 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

3 DCカプラーを入れる

● ふたを開け、DCカプラーをロック位置までしっかりと入れます。

4 ふたを閉める

● DC カプラーコード通し部のキャップを開きながらコードを溝に通し、ふたを閉じます。

カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたままで、電源コードの抜き差しを行わないでください。

ここからの説明について

下記のタイトルをクリックして該当ページを参照してください。

1

ネットワークの基本設定

カメラのメニュー画面に表示されるWFT-E5用接続操作ガイドを使用して、ネットワークの基本設定を行います。

事前準備

[FTP転送]、[EOSUtility]、[WFTserver]

接続操作ガイドでは、すでに構築されている無線LAN、有線LANのネットワークにWFT-E5を接続する操作を行います。
無線LANに接続する場合は、無線LAN端末（無線LANアクセスポイント、または無線LANアダプター）とパソコンをあらかじめ用意し、WFT-E5が無線LANで接続できる状態にしておいてください。ネットワークの基本設定を行うときは、WFT-E5と無線LAN端末との距離を3m以内にしておいてください。
有線LANで接続する場合は、WFT-E5とパソコンをLANケーブルで接続し、WFT-E5が有線LANで接続できる状態にしておいてください。

動画の無線LAN転送について

動画は1ファイルあたりの容量が大きく、無線LANでは大容量ファイルの転送に時間がかかります。114ページの記載内容を参考にして、無線LAN端末との通信が安定して行える環境を構築しておいてください。

[MediaServ.]（メディアサーバー）

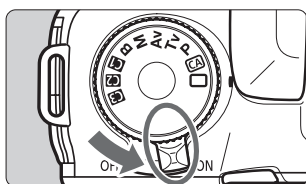
DLNA* 対応のテレビやフォトフレームなどのメディアプレーヤーを用意し、WFT-E5を接続するだけで使用できる状態にしておいてください。
* Digital Living Network Allianceの略

[連動撮影]

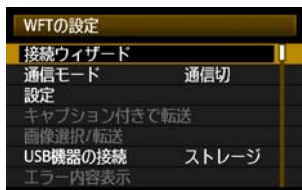
WFT-E5を装着した2台以上のEOS 7Dを用意しておいてください。

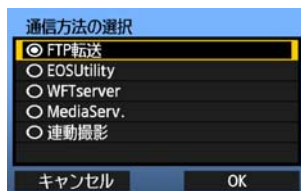
接続ウィザードを表示する

この項では、接続操作ガイドの流れに沿って説明します。途中、エラーが表示されたときは、10章の「トラブルシューティング」（p.99）を参照して、設定内容を見直してください。

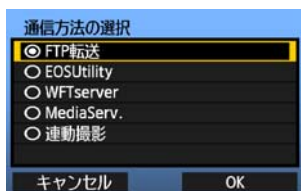
- 接続操作ガイドでの設定中にシャッターボタンなどを押すと、接続操作ガイドが終了しますので、設定が終わるまでシャッターボタンなどを押さないよう注意してください。
- ［ ］タブの［**オートパワーオフ**］は、［**切**］に設定してください。オートパワーオフ機能が働くと、接続操作ガイドが途中で終了します。

1 カメラの電源スイッチを入れる

2 WFT-E5のメニューを表示する

- カメラの〈MENU〉ボタンを押します。
- ［ ］タブの［**WFTの設定**］を選び〈SET〉を押します。［**WFTの設定**］は、WFT-E5を取り付けたときに表示されます。

3 ［接続ウィザード］を選ぶ

➡ ［**通信方法の選択**］画面が表示されます。

➡ 〈**LAN**〉ランプが点滅します。

通信方法とLANの種類を選ぶ

通信方法を選ぶ

- 〈◎〉を回して通信方法を選び、〈SET〉を押します。
- ［OK］を選び〈SET〉を押すと次の画面に進みます。

●FTP転送

撮影した画像をFTPサーバーに転送するときに選びます。
撮影時に自動転送できるほか、撮影後に画像を選択して転送することもできます。

使用できるパソコンのOSについて

［**FTP転送**］を使用するためには、Windows Vista（Business/Enterprise/Ultimateの32bit/64bitシステム用）、Windows XP Professional、Windows 2000、またはMac OS X 10.4、10.5がインストールされたパソコンが必要です。また、そのパソコンをあらかじめFTPサーバーとして機能させておく必要があります。
パソコンをFTPサーバーとして機能させる方法については、お使いの機器の各メーカーへお問い合わせください。
Windows Vista Home Premium/Home Basic EditionとWindows XP Home Editionは、FTPサーバー機能がないため使用できません。

●EOS Utility

カメラに付属しているソフトウェアEOS Utilityで行うリモート撮影を、無線／有線LANで行うときに選びます。
USBケーブルの代わりに無線／有線LANを利用する仕組みなので、リモート撮影だけでなく、EOS Utilityで行うことができるすべてのカメラ操作が可能です。
EOS 7Dに付属しているソフトウェア、EOS Utilityがインストールされたパソコンが必要です。

●WFTserver

WFT-E5のサーバー機能を利用したリモート撮影を、無線／有線LANで行うときに選びます。また、カメラにセットされたCFカード内の画像を閲覧して、パソコンに取り込むことができます。
Webのホームページにアクセスする感覚で、3台のパソコンがカメラにアクセスすることができます。

使用できるパソコンのOSについて
Webブラウザーを備えたパソコンであれば、OSを問わず使用することができます。
なお、Webブラウザーを備えていれば、パソコン以外の機器でも使用することができます。ただし、WebブラウザーがJavaスクリプトに対応していないときは、WFTServerの機能が制限されます。また、機器の性能によっては、映像の表示速度が遅かったり、画像を機器に取り込むことができない場合があります。

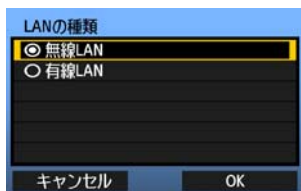
●MediaServ.（メディアサーバー）

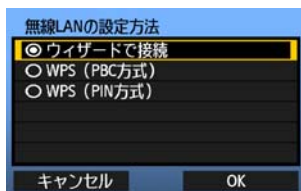
カメラにセットされたCFカード内の画像を、無線／有線LANを経由してテレビで閲覧するときに選びます。
この機能を利用するためには、DLNA対応のテレビやフォトフレームなどのメディアプレーヤーが必要です。

●連動撮影

WFT-E5を装着した複数のEOS 7Dを使用して、複数のカメラで連動撮影するときに選びます。レリーズを行うマスターカメラに対し、10台までのスレーブカメラを連動させることができます。なお、マスターカメラのレリーズからスレーブカメラの撮影までは、若干のタイムラグが生じます。また、動画撮影には対応していません。
これ以降の［連動撮影］に関する説明は、69ページを参照してください。

LANの種類を選ぶ

［連動撮影］は、69ページを参照してください。この章の、このページ以降、［連動撮影］に関する説明はありません。

- 〈◎〉を回して LAN の種類を選び、〈SET〉を押します。
- ［**OK**］を選び〈SET〉を押すと次の画面に進みます。

無線LAN

［**無線LANの設定方法**］選択画面が表示されます。

［**ウィザードで接続**］：25ページ参照
［**WPS（PBC方式）**］：27ページ参照
［**WPS（PIN方式）**］：28ページ参照

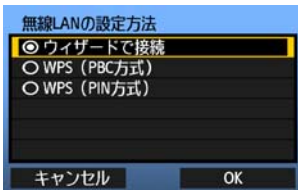
［**WPS（PBC方式）**］、［**WPS（PIN方式）**］は、WPS：Wi-Fi Protected Setup（ワイファイ プロテクテッド セットアップ）に対応した無線LAN端末使用時に選択します。

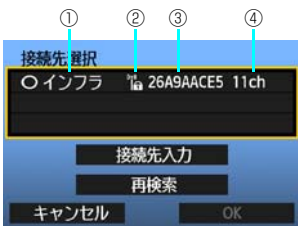
有線LAN

［**ネットワーク**］設定画面が表示されます。有線LANを選択したときは、29ページの「ネットワークを設定する」に進んでください。
なお、LANケーブルは、カテゴリー 5以上の「STPケーブル」を使用してください。（STP：Shielded Twisted Pairの略）

ウィザードで接続する

無線LANの接続先を選ぶ

［**ウィザードで接続**］を選ぶと、近くで稼動中の無線LAN端末の一覧とその情報が表示されます。自分が使用している無線LAN端末のSSID（またはESS-ID）を選びます。

1 ［ウィザードで接続］を選ぶ

● 〈◎〉を回して［**ウィザードで接続**］を選び、〈SET〉を押します。

2 無線LAN端末を選ぶ

● 〈SET〉を押すと、無線LAN端末が選択できるようになります。
● 〈◎〉を回して無線LAN端末を選び、〈SET〉を押します。
● ［OK］を選び〈SET〉を押すと次の画面に進みます。

① インフラ（インフラストラクチャー）かアドホックを表示
② 無線LAN端末が暗号化されているときはアイコンを表示
③ SSIDの先頭9文字を表示
④ 使用しているチャンネルを表示

無線LAN端末の暗号化について

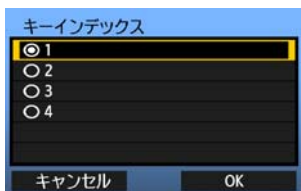
無線LAN端末を暗号化するときは、［**認証方式**］と［**暗号方式**］を下記のいずれかに該当する設定にしてください。

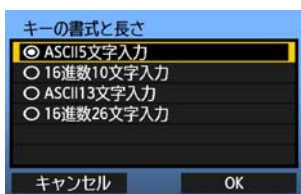
● ［**認証方式**］：オープン、共有キー、WPA-PSK、WPA2-PSK
● ［**暗号方式**］：WEP、TKIP、AES

［接続先入力］と［再検索］について

● ［**接続先入力**］を選んで〈SET〉を押すと、手動で無線LAN端末に関する設定を行うことができます。表示される内容に従って設定を行ってください。
● ［**再検索**］を選んで〈SET〉を押すと、無線LAN端末を再検索します。

無線LANの暗号キーを設定する

無線LAN端末に設定されている暗号キーを設定します。設定されている暗号キーについては、無線LAN端末の使用説明書を参照してください。
なお、下記の手順1～3で表示される画面は、無線LAN端末に設定されている認証方式と暗号方式によって異なります。

1

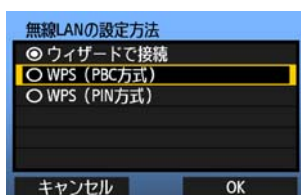
- ［**キーインデックス**］の画面は、無線LAN端末の暗号方式がWEPのときにのみ表示されます。
- 〈◎〉を回してアクセスポイントに設定されているキーインデックスの番号を選び、〈SET〉を押します。
- ［OK］を選び〈SET〉を押すと次の画面に進みます。

2

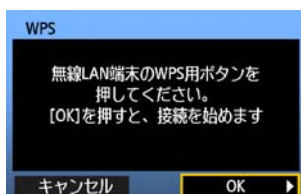
- 〈◎〉を回してキーの書式と長さを選び、〈SET〉を押します。
- ［OK］を選び〈SET〉を押すと次の画面に進みます。

3

- 暗号キーを入力します。
- 〈⊡〉ボタンを押すと、入力エリアが交互に切り換わります。
- 〈◎〉を回すとカーソルが移動します。
- 下側の入力エリアで〈◎〉を回し、〈SET〉を押して暗号キーを入力します。
- 入力を間違えたときは、〈🗑〉ボタンで消去します。
- 〈MENU〉ボタンを押して無線LAN端末との接続が完了すると、［**ネットワーク**］画面（p.29）が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、入力をキャンセルして手順2の画面に戻ります。

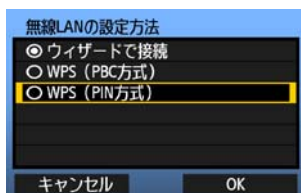
WPS（PBC方式）で接続する

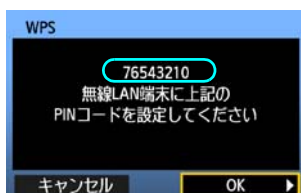
WPS：Wi-Fi Protected Setup（ワイファイ プロテクテッド セットアップ）に対応した無線LAN端末使用時の接続方法です。PBC方式（プッシュボタン接続方式）では、無線LAN端末のWPS用ボタンを押すことで、カメラと無線LAN端末の接続を簡単に行うことができます。なお、周囲に複数の無線LAN端末が稼動していると、うまく接続できないことがあります。このような場合は、［**WPS（PIN方式）**］で接続してください。
無線LAN端末に付いているWPS用ボタンの場所を、あらかじめ確認しておいてください。
接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。
無線LAN端末のステルス機能を有効にしていると接続できない場合があります。ステルス機能を無効にしてください。

1 ［WPS（PBC方式）］を選ぶ

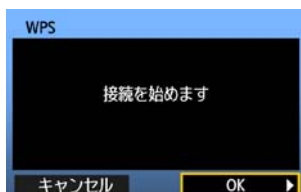
- 〈◎〉を回して［**WPS（PBC方式）**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**OK**］を選び〈SET〉を押すと次の画面に進みます。

2 無線LAN端末に接続する

- 無線LAN端末のWPS用ボタンを押します。ボタンの場所とボタンを押す時間は、無線LAN端末の使用説明書を参照してください。
- ［**OK**］を選び〈SET〉を押すと、無線LAN端末との接続を開始します。
- 無線 LAN 端末との接続が完了すると、［**ネットワーク**］画面（p.29）が表示されます。

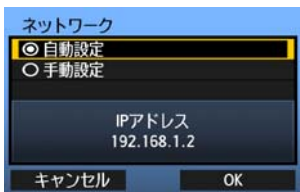
WPS（PIN方式）で接続する

WPS：Wi-Fi Protected Setup（ワイファイ プロテクテッド セットアップ）に対応した無線LAN端末使用時の接続方法です。PIN方式（ピンコード接続方式）では、カメラが指定する8桁の識別番号を無線LAN端末に設定して接続します。
周囲に複数の無線LAN端末が稼動している状況でも、共通の識別番号で比較的確実に接続することができます。
接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。
無線LAN端末のステルス機能を有効にしていると接続できない場合があります。ステルス機能を無効にしてください。

1 ［WPS（PIN方式）］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**WPS（PIN方式）**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［OK］を選び〈SET〉を押すと次の画面に進みます。

2 無線LAN端末にPINコードを設定する

- カメラの液晶モニターに表示される 8 桁の PIN コードを無線LAN端末に設定します。
- 無線LAN端末へのPINコードの入力方法は、無線LAN端末の使用説明書を参照してください。
- ［OK］を選び〈SET〉を押すと確認画面が表示されます。

3 無線LAN端末に接続する

- ［OK］を選び〈SET〉を押すと、無線LAN端末との接続を開始します。
- 無線 LAN 端末との接続が完了すると、［**ネットワーク**］画面（p.29）が表示されます。

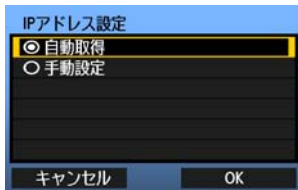
ネットワークを設定する

- 〈◎〉を回してネットワークの内容を選び、〈SET〉を押します。
- ［OK］を選び〈SET〉を押すと次の画面に進みます。

［自動設定］

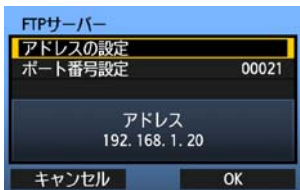
- ［**手動設定**］で行う設定を自動的に行うことができます。ただし、DHCP サーバーや DHCP サーバー機能を持つ無線LAN端末やルーターを使用している環境で、IPアドレスなどが自動的に割り当てられる設定になっている必要があります。
  なお、IPアドレスなどが自動的に割り当てられる設定になっているにも関わらずエラーが表示されるときは、［**手動設定**］を選んでください。

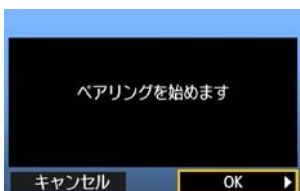
［手動設定］

［**手動設定**］を選ぶと［**IPアドレス設定**］の画面が表示されます。
［**自動設定**］でエラーが表示されたときは、IPアドレスを手動設定してください。なお、IPアドレスは、カメラに割り当てるIPアドレスを設定します。
表示される画面にしたがって［**IPアドレス**］、［**サブネットマスク**］、［**ゲートウェイ**］、［**DNSアドレス**］を設定します。
設定する内容がわからない場合は、115ページの「ネットワークの設定を確認する」を参照するか、ネットワーク管理者、またはネットワークに詳しい方に問い合わせてください。

- IP アドレスやサブネットマスクなどの数値を入力するときは、〈SET〉を押して入力場所を選択し、〈◎〉を回して数値を入力します。

通信方法に応じた設定を行う

ここからは、下記のようにFTP転送、EOS Utility、WFTサーバー、メディアサーバーの各通信方法に応じた設定画面になります。選択した通信方法の説明ページをお読みください。

FTP転送

2章（p.33）

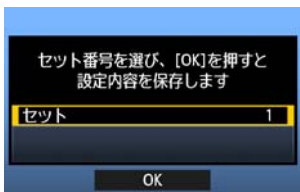
EOS Utility

3章（p.47）

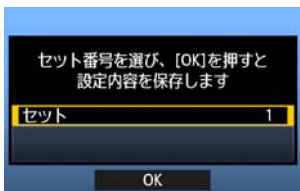
Windows Vistaをお使いの方へ

47ページからの操作を行う前に、以下の操作を行ってください。この操作を行わないと、48ページで説明している「WFTペアリングソフト」が起動しない場合があります。

［C］ドライブ →［Program Files］→［Canon］→［EOS Utility］→［WFTPairing］フォルダの順に開き、［WFT FirewallSettings］アイコンをダブルクリックします。

この操作を行ってから47ページの操作を行ってください。

WFTserver（WFTサーバー）

4章（p.53）

MediaServ.（メディアサーバー）

5章（p.65）

仮想キーボードの操作方法について

仮想キーボードは、暗号キーやサーバー名の入力時に表示されます。

入力エリアの切り換え

〈 〉ボタンを押すと、入力エリアが交互に切り換わります。

カーソルの移動

〈 〉を回すとカーソルが移動します。
〈 〉でも移動できます。

文字の入力

下側の入力エリアで〈 〉を回してカーソルを移動し、〈SET〉を押して文字を入力します。
〈 〉でも移動できます。

文字の削除

入力を間違えたときは、〈 〉ボタンで消去します。

入力の終了

〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して次の画面に進みます。

入力のキャンセル

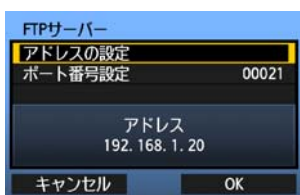
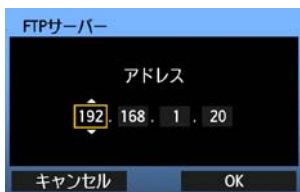
〈INFO.〉ボタンを押すと、入力をキャンセルして前の画面に戻ります。

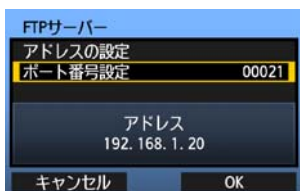
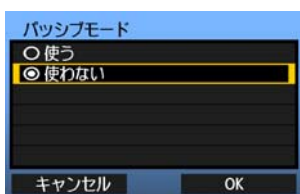
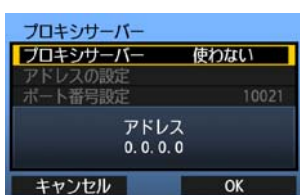
2

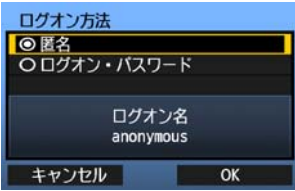
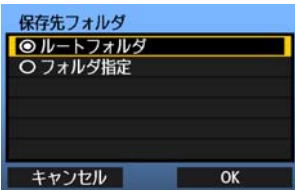
FTP サーバーへの画像転送

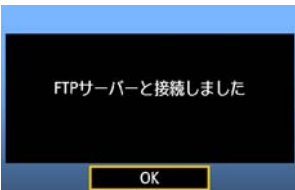
FTP転送では、撮影した画像を撮影時にFTPサーバーへ自動転送できるほか、撮影後にまとめて転送することができます。

FTP転送の通信設定を行う

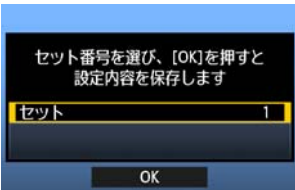
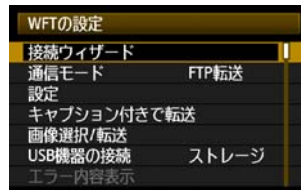
この項では、1章からの続きを説明しています。

1
- 〈◎〉を回して［**アドレスの設定**］を選び、〈SET〉を押します。

2
- DNSサーバーを［**使わない**］設定のときは、左の画面が表示されます。
- 〈SET〉を押して入力場所を選択し、〈◎〉を回してFTPサーバーのIPアドレスを入力します。

- DNSサーバーのIPアドレスを［**自動取得**］、または［**手動設定**］としているときは、左の画面が表示されます。
- 画面の操作は、「仮想キーボードの操作方法について」（p.31）を参照してください。
- FTPサーバーのサーバー名、またはIPアドレスを設定します。

3
- ［**ポート番号設定**］は、通常00021を設定します。
- 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押すと次の画面に進みます。

4
- ［**パッシブモード**］の設定を行います。
- 手順8で「エラー41：FTPサーバーに接続できません」が表示されたときは、［**パッシブモード**］を［**使う**］設定にすると解決することがあります。

5
- ［**プロキシサーバー**］の設定を行います。
- 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押すと次の画面に進みます。

6

- ［**ログオン方法**］の設定を行います。
- 〈○〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押すと次の画面に進みます。

7

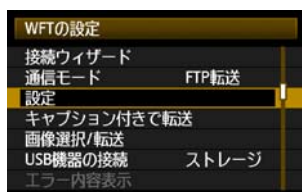
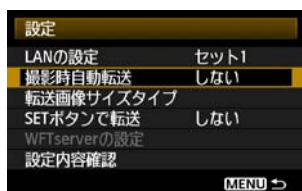
- ［**保存先フォルダ**］の設定を行います。
- ［**ルートフォルダ**］を選択すると、FTPサーバーで設定したルートフォルダの中に保存されます。（p.45）
- ［**フォルダ指定**］を選択すると、ルートフォルダの中にある保存先フォルダを指定することができます。フォルダがないときは、自動作成されます。
- 〈○〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押すとFTPサーバーに接続します。

8

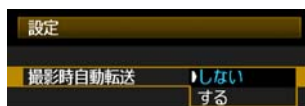
- 表示される確認画面で［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ⇒〈**LAN**〉ランプが緑色に点灯します。

9

- 〈SET〉を押して〈○〉を回し、セット番号を選択して〈SET〉を押します。
- 〈○〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押すと接続ウィザードが終了してメニュー画面に戻ります。

- 設定した内容はカメラに保存されます。WFT-E5には保存されません。

これでFTP転送のネットワーク設定は完了です。

撮影時に自動転送する

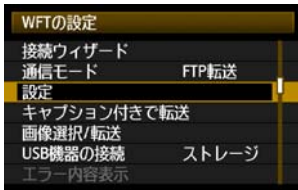
撮影した画像をすぐにFTPサーバーへ自動転送します。なお、転送中も通常どおり撮影を行うことができます。
必ずCFカードを入れるか、外部メディア（p.79）を接続して撮影してください。画像が記録されない状態で撮影すると、画像が転送されません。
動画は撮影時に自動転送できません。撮影後、39～43ページで説明している方法で転送してください。

1 ［WFTの設定］で［設定］を選ぶ

2 ［撮影時自動転送］を選ぶ

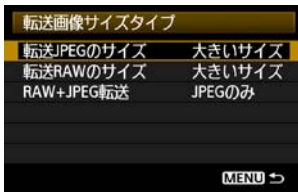
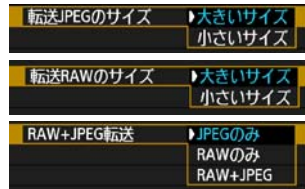
- ［する］を選びます。

3 撮影する

⇒ 撮影した画像がFTPサーバーに転送されます。
- 転送中は、〈LAN〉ランプが点滅します。

- 連続撮影したときは、撮影した順にFTPサーバーへ画像が転送されます。
- 撮影した画像は、CFカードにも記録されます。
- 転送が中断した画像や、転送に失敗した画像は、あとからまとめて転送することができます。

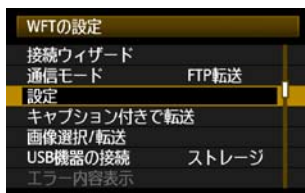
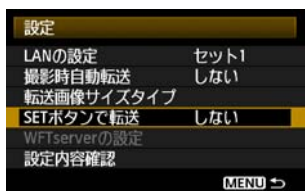
転送する画像のサイズとタイプを設定する

撮影時自動転送では、「CFカードと外部メディアに異なるサイズの画像が記録されたとき（p.85）」や「RAW画像とJPEG画像が同時記録されたとき」に、どちらの画像を転送するかを設定することができます。

1 ［WFTの設定］で［設定］を選ぶ

2 ［転送画像サイズタイプ］を選ぶ

3 転送する画像のサイズとタイプを選ぶ

- 例えばCFカードに◢L、外部メディアに◢Lを記録する設定で、◢Lの方を転送したいときは、「転送JPEGのサイズ：小さいサイズ」に設定します。
- CFカードにRAW、外部メディアにJPEGを記録する設定のときは、［RAW+JPEG転送］の設定で転送する画像を決めます。CFカード1枚にRAW+JPEG同時記録を行うときも同様に設定します。

1枚ずつ転送する

画像を選び、〈SET〉を押すだけで転送することができます。また、キャプション（見出し）を付けて画像を転送することができます。なお、転送中も通常どおり撮影を行うことができます。

再生して転送する

1 ［WFTの設定］で［設定］を選ぶ

2 ［SETボタンで転送］を選ぶ

● ［**する**］を選びます。

3 画像を選ぶ

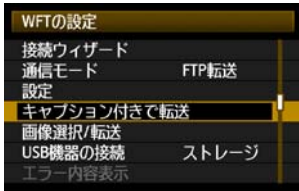
● カメラの〈▶〉ボタンを押します。

● 転送する画像を選び、〈SET〉を押すとその画像が転送されます。

● **動画は転送できません。動画を選んで〈SET〉を押すと、動画再生パネルが表示されます。**

キャプション付きで転送する

登録したキャプションを画像に付加して、1 枚ずつ転送することができます。印刷する枚数などを画像転送先に伝えたいときなどに効果的です。なお、カメラに保存された画像にもキャプションが付加されます。
キャプションの作成／登録方法は、120ページを参照してください。
画像に付加されたキャプションは、Exif情報のユーザーコメント欄で確認することができます。

1 撮影する

2 ［WFT の設定］で［キャプション付きで転送］を選ぶ

➡ 最後に撮影された画像が表示されます。

- ［**キャプション付きで転送**］画面では、画像を任意に選択することはできません。ほかの画像をキャプション付きで転送するときは、その画像を再生してからこの操作を行ってください。

3 キャプションを選ぶ

- 〈◎〉を回して［**キャプション**］の枠を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回してキャプションの内容を選び、〈SET〉を押します。

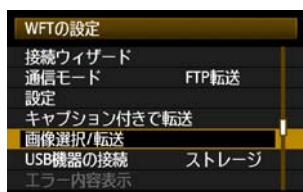
4 画像を転送する

- 〈◎〉を回して［**転送**］を選び、〈SET〉を押します。

オリジナル画像判定用データが付加された画像にキャプションを付けると、オリジナル画像として判定されません。

まとめて転送する

撮影後に、複数の画像を任意に選択しての転送や、未転送画像、転送失敗画像の一括転送を行うことができます。
カメラのCFカードのほかに、外部メディアも併用している場合は、メニュー［🔧］タブの［**記録機能とメディア選択**］で選んだ［**記録・再生**］メディアの画像が転送されます。
なお、転送中も通常どおりに撮影を行うことができます。

画像を任意に選択して転送する

1 ［WFTの設定］で［画像選択／転送］を選ぶ

2 ［画像選択］を選ぶ

➡ 画像が表示されます。

3 転送する画像を選ぶ

- 〈SET〉を押して〈◎〉を回し、転送する画像の左上に〈✓〉を表示させせます。
- 〈SET〉を押すと確定します。
  合計9999画像まで選択できます。
- 〈🔍-〉ボタンを押すと３枚表示になります。〈🔍+〉ボタンを押すと1枚表示に戻ります。

- 転送する画像の選択が終わったら〈MENU〉ボタンを押します。

4 画像を転送する

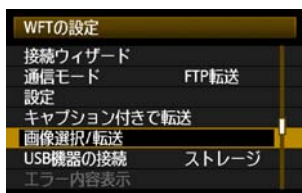
- ［**転送**］を選びます。
- 表示される確認画面で［**OK**］を選びます。

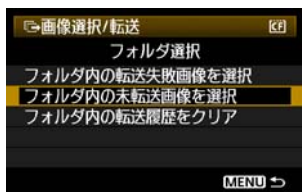
⇒ 転送状態を示す画面が表示されます。

- 転送中は、〈**LAN**〉ランプが点滅します。

画像転送中のメニュー操作について

画像転送中もメニュー操作を行うことができますが、画像転送に不都合を及ぼす［**WFTの設定**］、［**画像プロテクト**］、［**画像消去**］、［**CFカード初期化**］、［**記録機能とメディア選択**］などのメニュー項目は操作できないようになっています。

フォルダ内の画像を一括転送する

1 ［WFTの設定］で［画像選択／転送］を選ぶ

2 ［■選択］を選ぶ

3 ［フォルダ内の未転送画像を選択］を選ぶ

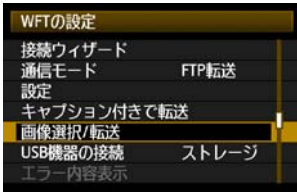
- 転送に失敗した画像を転送するときは、［**フォルダ内の転送失敗画像を選択**］を選びます。

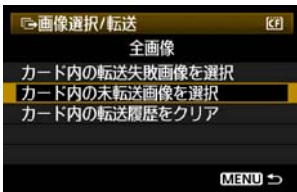
4 フォルダを選択する

5 画像を転送する

- ［**転送**］を選びます。
- 表示される確認画面で［**OK**］を選びます。
- ➜ 転送状態を示す画面が表示されます。
- 転送中は、〈**LAN**〉ランプが点滅します。

［**フォルダ内の転送履歴をクリア**］を選ぶと、選択したフォルダに入っている画像の転送履歴が「未転送」になります。この操作をしたあとで［**フォルダ内の未転送画像を選択**］を選ぶと、フォルダ内の全画像を再転送することができます。

CFカード内の画像を一括転送する

1 ［WFTの設定］で［画像選択/転送］を選ぶ

2 ［全画像］を選ぶ

3 ［カード内の未転送画像を選択］を選ぶ

- 転送に失敗した画像を転送するときは、［**カード内の転送失敗画像を選択**］を選びます。

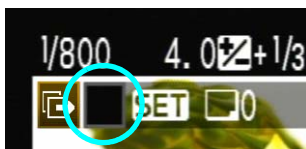
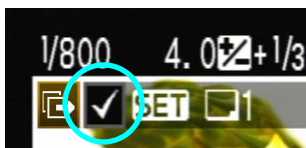
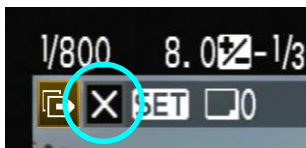
4 画像を転送する

- ［**転送**］を選びます。
- 表示される確認画面で［**OK**］を選びます。
- ➡ 転送状態を示す画面が表示されます。
- 転送中は、〈**LAN**〉ランプが点滅します。

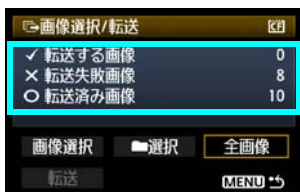
［**カード内の転送履歴をクリア**］を選ぶと、CFカードに入っている画像の転送履歴が「未転送」になります。この操作をしたあとで［**カード内の未転送画像を選択**］を選ぶと、カード内の全画像を再転送することができます。

転送履歴を確認する

1画像ずつ転送履歴を確認する

［**画像選択／転送**］で［**画像選択**］を選ぶと、転送履歴を確認することができます。

未選択画像（マークなし）

転送する画像

転送失敗画像

転送済み画像

CFカード単位で確認する

［**画像選択/転送**］で表示される画面は、これから転送する画像の枚数のほかに、CFカードに入っている画像のうち、［**転送失敗画像**］、［**転送済み画像**］が何枚あるかという転送履歴を確認することができます。

転送された画像を見る

FTPサーバーに転送された画像は、FTPサーバーで設定した下記のフォルダに保存されています。

Windows

- FTPサーバーを初期設定で使用しているときは、［Cドライブ］→［Inetpub］フォルダ→［ftproot］フォルダの中に画像、または画像が保存されているフォルダが入っています。
- FTPサーバーの設定で転送先のルートフォルダが変更されているときは、FTPサーバーの管理者に問い合わせてください。

Macintosh

- ［Macintosh HD］→［ユーザ］フォルダを開きます。ログオンしているユーザーのフォルダの中に画像、または画像が保存されているフォルダが入っています。

画像が保存されているフォルダについて

WFT-E5の初期設定では、FTPサーバーで設定したルートフォルダの中に、「A/DCIM/100EOS7D」というようなフォルダ階層を自動作成して画像を保存します。
なお、記録・再生メディアがCFカードのときは「A/DCIM/100EOS7D」、外部メディアのときは「C/DCIM/100EOS7D」というようにフォルダ階層を自動作成して画像を保存します（CFカードの画像はAフォルダ、外部メディアの画像はCフォルダに振り分けます）。

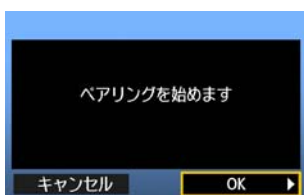
3

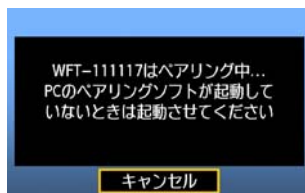
EOS Utility で
リモート撮影

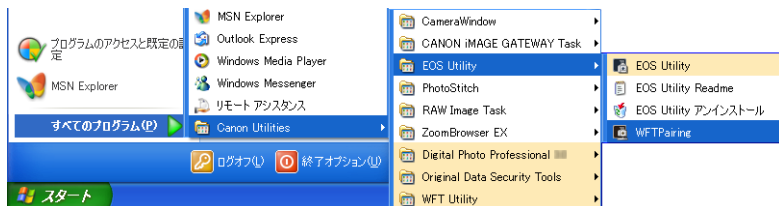
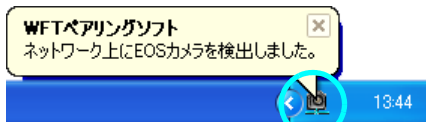
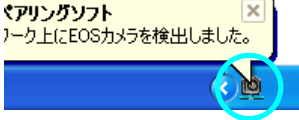
EOS Utilityで行うリモート撮影を、無線／有線LANで行うことができます。USBケーブルの代わりに無線／有線LANを利用する仕組みなので、リモート撮影だけでなく、EOS Utilityで行うことができるすべてのカメラ操作が可能です。

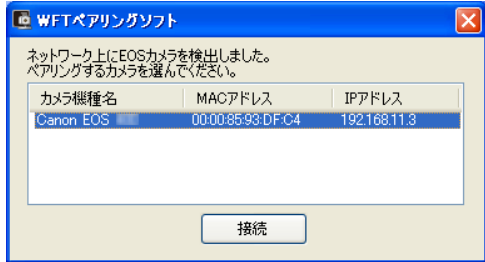
EOS Utilityの通信設定を行う

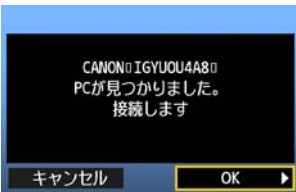
この項では、1章からの続きを説明しています。

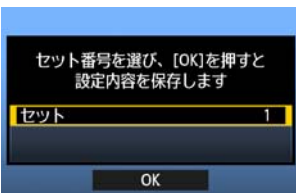
EOS Utilityでは、カメラに付属のソフトウェア「WFTペアリングソフト」を使用してパソコンに接続します。
「WFTペアリングソフト」は、カメラの付属ソフトウェアを「おまかせインストール」している場合、自動的にインストールされています。インストールされていないときは、WFT-E5が接続するパソコンに、あらかじめインストールしておいてください。
ここでは、Windows XPの場合を例にして説明しています。

1

- ペアリングの画面が表示されます。
- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押すと下記のメッセージ画面が表示されます。なお、「******」は、接続しようとしているWFT-E5のMACアドレス下6桁です。

2

- ペアリングソフトを起動します。
- 通常は、EOS Utilityと同じ場所にインストールされています。

➡ ペアリングソフトが起動すると、タスクバーにアイコンが表示されます。
➡ カメラを検出すると、メッセージが表示されます。

3

- ペアリングソフトのアイコンをダブルクリックします。
- ➡ 検出されたカメラの一覧が表示されます。すでに接続されているカメラがある場合、そのカメラは一覧の中に表示されません。

- ［**接続**］を押します。
- 複数のカメラが表示されるときは、［**MACアドレス**］、または［**IPアドレス**］で接続するカメラを特定します。
- ［**MACアドレス**］と［**IPアドレス**］は、メニューの［**設定内容確認**］（p.74）で確認できます。

4

- 手順3で［**接続**］操作をしたパソコンが見つかると、左記の表示になります。
- 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押します。

5

- 〈SET〉を押して〈◎〉を回し、セット番号を選択して〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して［**OK**］を選び、〈SET〉を押すと接続ウィザードが終了して、EOS Utilityが起動します。
- ➡ WFT-E5の〈**LAN**〉ランプが緑色に点灯します。
- 設定した内容はカメラに保存されます。WFT-E5には保存されません。

これでEOS Utilityのネットワーク設定は完了です。

- 一度ペアリングを行った「カメラと WFT-E5、パソコンの組み合わせ」で、設定を変えずに使い続ける場合、次回からはペアリングを行う必要はありません。
  次回使うときは、WFT-E5を取り付けたカメラの電源スイッチを入れて、ペアリングソフトを起動するだけで、カメラとパソコンの接続が自動的に行われます。
- ペアリングソフトは、スタートアップメニューに登録することができます。EOS Utilityの［**環境設定**］→［**基本設定**］タブの、［□**WFTペアリングソフトをスタートアップに登録する**］にチェックを入れてください。

EOS Utilityを使う

EOS Utilityの操作方法については、ソフトウェア使用説明書（PDF）を参照してください。
USB接続のときと同様に、EOS Utilityの機能を制限なく使用することができます。

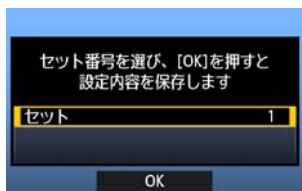
リモートライブビュー撮影では、USB接続時よりも通信速度が遅くなるため、動きのある被写体を滑らかに表示することはできません。

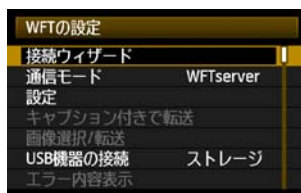
4

WFT サーバーでリモート撮影

Webブラウザーを利用して、カメラにセットされたCFカード内の画像を閲覧して、パソコンに取り込むことができます。
また、リモート撮影を、無線／有線LANで行うことができます。なお、バルブ撮影と動画撮影はできません。

WFTサーバーの通信設定を行う

この項では、1章からの続きを説明しています。

- 〈SET〉を押して〈◎〉を回し、セット番号を選択して〈SET〉を押します。
- もう一度〈SET〉を押すと接続ウィザードが終了してメニュー画面に戻ります。

⇒ WFT-E5の〈**LAN**〉ランプが緑色に点灯します。

- 設定した内容はカメラに保存されます。WFT-E5には保存されません。

アカウントを設定する

パソコンからカメラに接続するための、ログオン名とパスワードを設定します。ここで設定したログオン名とパスワードは、パソコンからカメラに接続する際に使用します。

1

- 〈◎〉を回して［**設定**］を選び、〈SET〉を押します。

2

- 〈◎〉を回して［**WFTserver の設定**］を選び、〈SET〉を押します。

3

- 〈◎〉を回して［**WFTアカウント**］を選び、〈SET〉を押します。
- ポート番号を変更するときは、〈◎〉を回して［**ポート番号**］を選び、〈SET〉を押します。なお、通常、ポート番号（80）の変更は必要ありません。

4

- ユーザー番号を選びます。
- WFTサーバーでは、カメラ１台に対し、パソコン３台が接続できます。複数のパソコンがWFT-E5に接続するときは、重複しないユーザー番号を選びます。
- 〈◎〉を回して［**ユーザー***］を選び、〈SET〉を押します。

5

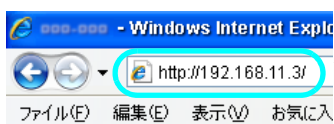
- ［**ログオン名**］と［**パスワード**］を選ぶと、下記の入力画面が表示されます。
- 入力画面の操作は、「仮想キーボードの操作方法について」（p.31）を参照してください。

これでWFTサーバーのネットワーク設定は完了です。

WFTサーバーを表示する

Webブラウザーに WFT-E5の操作画面「WFTサーバー」を表示します。あらかじめカメラとパソコンのLAN接続を確立しておきます。

1 Webブラウザーを起動する

- インターネットエクスプローラーなどのWebブラウザーを起動します。

2 URLを入力する

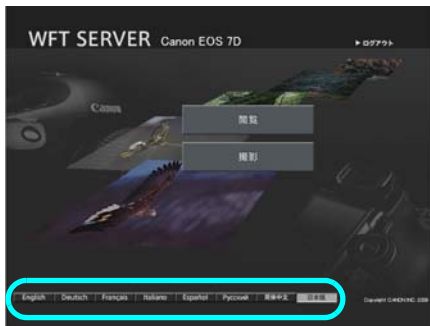
- URLの入力欄に、カメラに設定しているIPアドレスを入力します。
- 〈**Enter**〉キーを押します。

3 ［ログオン名］と［パスワード］を入力する

- 55 ページで設定した［**ログオン名**］と［**パスワード**］を入力します。［**OK**］を押すとWFTサーバーの画面が表示されます。
- WebブラウザーがJavaスクリプト対応のときは、手順4左側の画面が表示されます。
  Javaスクリプト非対応のときは、メッセージ画面が表示されます。Javaスクリプトを使用しない選択をすると、手順4右側の、機能が限定された画面が表示されます。

4 言語を選択する

- 画面下側の言語を選択します。

Javaスクリプト対応

Javaスクリプト非対応

URL（IPアドレス）がわからないときは
メニューの［**設定内容確認**］（p.74）でURL（IPアドレス）が確認できます。

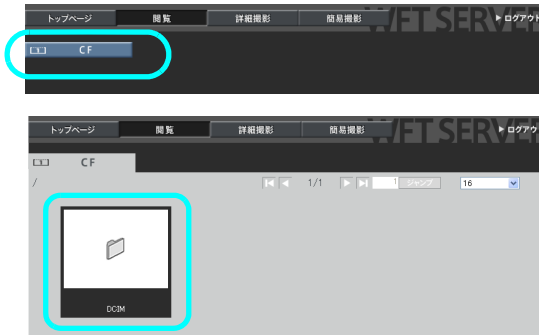
画像を閲覧する

カメラのCFカードに入っている画像を閲覧することができます。

1 ［閲覧］を押す

➡ 画像の閲覧画面が表示されます。

2 メモリーカードを選ぶ

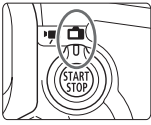
- ［CF］か外部メディアをクリックします。
- ［DCIM］フォルダをクリックし、画像の入っているフォルダを選択します。

3 画像を選ぶ

- 別の画像を見るときは、〈⏮ ◀ ▶ ⏭〉ボタンとページジャンプ機能を使います。
- WebブラウザーがJavaスクリプト対応のときは、1画面に表示するサムネイル画像の数を、右上のプルダウンで設定することができます。

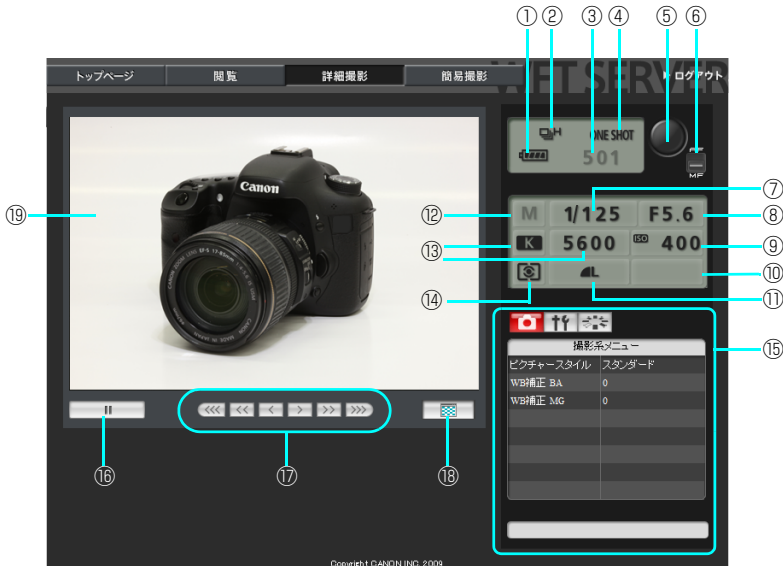
パソコンに画像を取り込む

- サムネイル画像をクリックします。
- ➡ 画像が大きく表示されます。
- 〈〉をクリックすると、画像をダウンロードすることができます。
- ［**戻る**］を押すと、画像閲覧画面に戻ります。

RAWと動画は本画像を表示できませんが、JPEGと同じ方法で画像をパソコンに取り込むことができます。

リモート撮影する［詳細撮影］

動画のリモート撮影には対応していません。カメラのライブビュー撮影／動画撮影スイッチをライブビュー撮影に設定して撮影してください。
Webブラウザーが Javaスクリプト非対応のときは、63ページの「リモート撮影する」を参照してください。

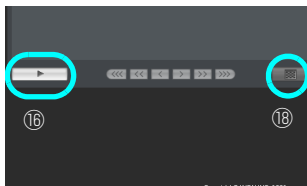
1 ［詳細撮影］を押す

➡ 詳細撮影画面が表示されます。

①	電池チェック
②	ドライブモード
③	撮影可能枚数
④	AFモード
⑤	レリーズボタン
⑥	AF/MF切り換えスイッチ
⑦	シャッター速度
⑧	絞り数値
⑨	ISO感度
⑩	露出補正

⑪	記録画質
⑫	撮影モード
⑬	ホワイトバランス
⑭	測光モード
⑮	メニュー
⑯	ライブビュー撮影ボタン
⑰	マニュアルフォーカスボタン
⑱	ライブビュー映像サイズ切り換えボタン
⑲	ライブビュー映像表示画面

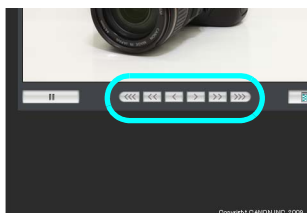
* グレー表示の項目は、WFTサーバーでは設定できません。②④⑫は、カメラ側で設定します。

2 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉に設定する

- この状態で「⑤レリーズボタン」を押して、「離すと」AFが行われ撮影されます（手順5参照）。
- ワンショットAFでは、ピントが合わないと撮影されません。次の手順以降の操作でライブビュー映像を表示して、手動ピント合わせで撮影することをおすすめします。

3 ライブビュー映像を表示する

- 「⑯ライブビュー撮影ボタン」を押します。

➡「⑥ AF/MF 切り換えスイッチ」が〈**MF**〉に設定され、ライブビュー映像が表示されます。

- ライブビュー映像が表示されないときは、「⑮メニュー」でライブビュー撮影ができる設定にしてください。
- ライブビュー映像の応答性を速くしたいときは、「⑱ライブビュー映像サイズ切り換えボタン」を押すと、ライブビュー映像が縮小され、応答性が速くなります。もう一度押すと元のサイズに戻ります。

4 手動でピントを合わせる

- 〈<<<〉〈<<〉〈<〉〈>〉〈>>〉〈>>>〉を押してピント合わせを行います。ライブビュー映像表示中は、AFでのピント合わせはできません。
- 〈<<<〉〈<<〉〈<〉は近距離側、〈>〉〈>>〉〈>>>〉は遠距離側にピントが移動します。
- ピントの移動量は3段階から選ぶことができます。

〈<<<〉〈>>>〉：大
〈<<〉〈>>〉：中
〈<〉〈>〉：小

5 撮影機能を設定する

- 記録画質などの項目をクリックするとその内容が表示され、設定を行うことができます。
- 必要な設定を行います。

6 撮影する

- 「⑤レリーズボタン」を押して、「離すと」撮影されます。

➡ 撮影した画像が表示されます。

- 撮影した画像は、カメラのCFカードに保存されます。
- パソコンに画像を取り込むときは、57 ページの［**閲覧**］機能を利用します。

複数のパソコンがアクセスしている状態で撮影を行うと、ライブビュー映像の動きが止まることがあります。

リモート撮影する［簡易撮影］

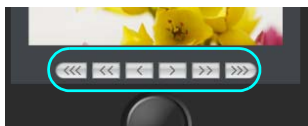
動画のリモート撮影には対応していません。カメラのライブビュー撮影／動画撮影スイッチをライブビュー撮影に設定して撮影してください。
Webブラウザーが Javaスクリプト非対応のときは、63ページの「リモート撮影する」を参照してください。

1 ［簡易撮影］を押す

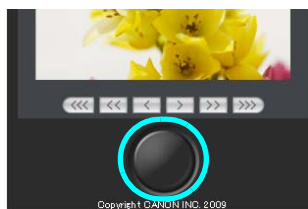
➡ 簡易撮影画面とライブビュー映像が表示されます。

ライブビュー映像表示画面

マニュアルフォーカスボタン
〈<<<〉〈<<〉〈<〉：近距離側にピントが移動
〈>〉〈>>〉〈>>>〉：遠距離側にピントが移動

ピント移動量
〈<<<〉〈>>>〉：大
〈<<〉〈>>〉：中
〈<〉〈>〉：小

レリーズボタン

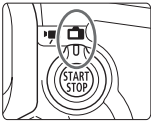
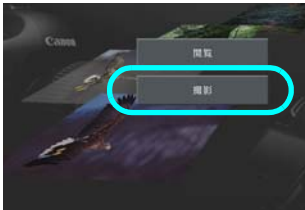
2 手動でピントを合わせる

- レンズのフォーカスモードスイッチは、〈AF〉に設定しておきます。
- 〈<<<〉〈<<〉〈<〉〈>〉〈>>〉〈>>>〉を押してピント合わせを行います。

3 撮影する

- レリーズボタンを押して、「離すと」撮影されます。

➡ 撮影した画像が表示されます。

- 撮影した画像は、カメラのCFカードに保存されます。
- パソコンに画像を取り込むときは、57 ページの［閲覧］機能を利用します。

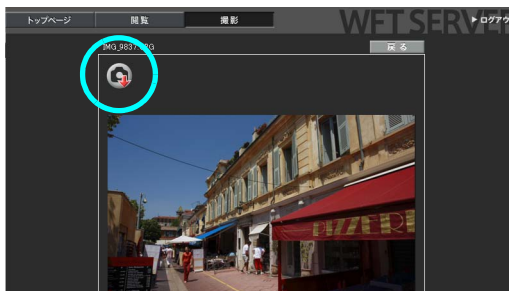
リモート撮影する

WebブラウザーがJavaスクリプト非対応のときのリモート撮影です。動画のリモート撮影には対応していません。カメラのライブビュー撮影／動画撮影スイッチをライブビュー撮影に設定して撮影してください。

1 ［撮影］を押す

➡ 撮影画面が表示されます。
● ライブビュー映像は表示されません。

2 撮影する

● レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にし、カメラ側でピント合わせを行います。
● レリーズボタンを押して、「離すと」撮影されます。
➡ 撮影した画像が表示されます。
● 撮影した画像は、カメラのCFカードに保存されます。

3 パソコンに画像を取り込む

● 画像をクリックします。
➡ 画像が大きく表示されます。
● 〈 〉をクリックすると、画像をダウンロードすることができます。
● ［**戻る**］を押すと、撮影画面に戻ります。

RAWは本画像を表示できませんが、JPEGと同じ方法で画像をパソコンに取り込むことができます。

5

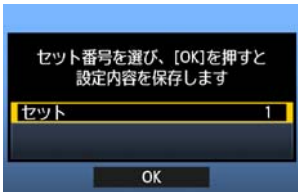
メディアサーバーにする

カメラにセットされたCFカード内の画像を、無線／有線LANを経由してテレビで閲覧することができます。

この機能を利用するためには、DLNA*対応のテレビやフォトフレームなどのメディアプレーヤーが必要です。以降の説明では、メディアプレーヤーと総称しています。

* Digital Living Network Allianceの略

メディアアサーバーの通信設定を行う

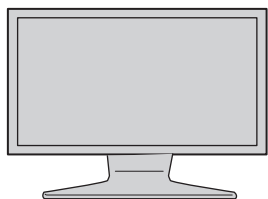
この項では、1章からの続きを説明しています。

- 〈SET〉を押して〈◎〉を回し、セット番号を選択して〈SET〉を押します。
- もう一度〈SET〉を押すと接続ウィザードが終了してメニュー画面に戻ります。

➡ WFT-E5の〈LAN〉ランプが緑色に点灯します。

- 設定した内容はカメラに保存されます。WFT-E5には保存されません。

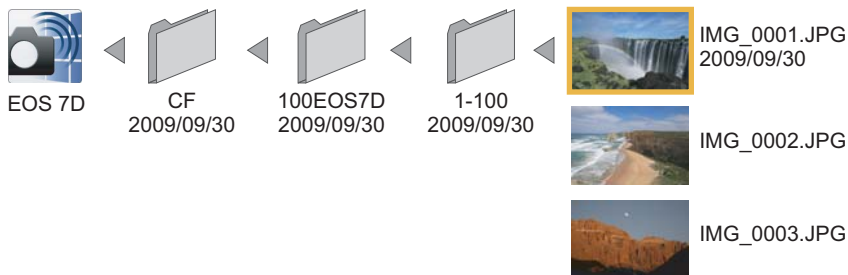
これでメディアサーバーのネットワーク設定は完了です。

撮影した画像をテレビに映す

メディアプレーヤーを操作して、カメラにセットされたCFカード内の画像をテレビに映します。なお、RAW画像と動画は映すことができません。
ここからの操作は、すべてメディアプレーヤーで行います。詳しいことは、メディアプレーヤーの使用説明書を参照してください。

1 テレビにメディアプレーヤーの設定画面を表示する

- メディアプレーヤー機能を使用して、テレビに〈 EOS7D〉（メディアサーバー）アイコンを表示します。
- メディアプレーヤーによっては、別のアイコンが表示されることがあります。その場合は、「EOS7D」と表示されているアイコンを見つけてください。

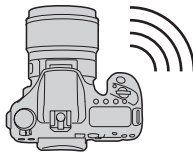
2 〈 EOS7D〉（メディアサーバー）アイコンを選ぶ

- 〈 EOS7D〉アイコンを選ぶとCFカード（または外部メディア）が表示され、さらに選んでいくと、フォルダと画像が選択できます。
- 画像を選んで、テレビに大きく表示させることができます。詳しくはメディアプレーヤーの使用説明書を参照してください。

- テレビに表示される画像情報と内容は、メディアプレーヤーによって異なります。また、メディアプレーヤーによっては、画像情報が表示されない場合があります。
- 「1-100」などと表示されているアイコンは、選んだフォルダ（***EOS7D）に入っている画像を、ファイル番号別に分けたものです。
- 画像に表示される年月日は、画像に付加されているExif情報を元に表示しています。
- CFカードやフォルダに表示される年月日は、カメラに設定されている今日の日付けが表示されることがあります。

連動撮影する

連動撮影では、レリーズを行うマスターカメラに対し、10台までのスレーブカメラを無線LAN（IEEE 802.11gのアドホックモード）で連動させることができます。

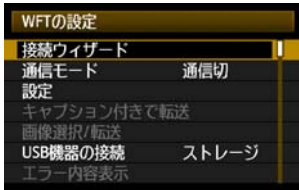
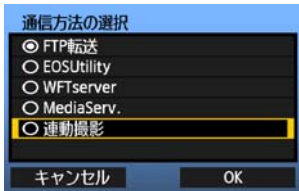
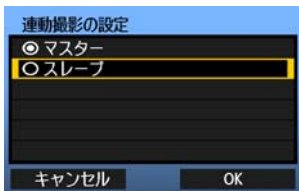
なお、マスターカメラのレリーズからスレーブカメラの撮影までは、若干のタイムラグが生じます。また、動画撮影には対応していません。

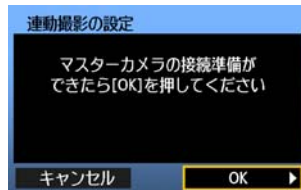
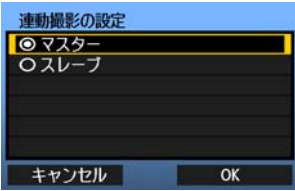
スレーブカメラ

マスターカメラ

連動撮影の準備

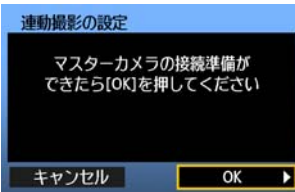
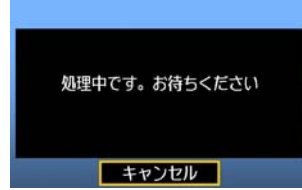
マスターカメラにスレーブカメラを接続します。連動撮影は、無線LAN（IEEE 802.11g）のアドホックモードを利用して行いますので、有線LANでの連動撮影はできません。

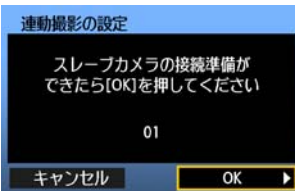
1 WFT-E5のメニューを表示する

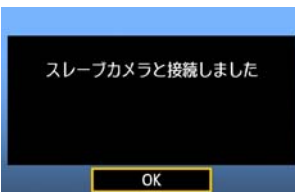
- カメラの〈MENU〉ボタンを押します。
- ［ ］タブの［**WFTの設定**］を選び〈SET〉を押します。［**WFTの設定**］は、WFT-E5を取り付けたときに表示されます。

2 ［接続ウィザード］を選ぶ

3 ［連動撮影］を選ぶ

4 スレーブカメラを準備する

- ［**スレーブ**］を選びます。
- ➡ 表示される下記の画面で待機します。

- 複数のスレーブカメラを使用するときは、すべてのスレーブカメラをこの状態にしておきます。
- 設定完了後にスレーブの追加／削除はできません。もう一度手順1から設定を行う必要があります。

5 マスターカメラを準備する

- マスターカメラに、前ページの手順 1 ～ 3 を設定し、［**マスター**］を選びます。

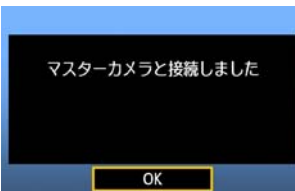
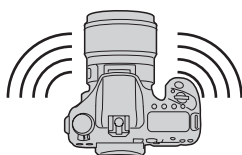
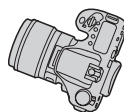
➡ 下記の画面が表示されます。

6 スレーブカメラの設定を進める

- スレーブカメラで［OK］を選びます。

7 スレーブカメラの台数を確認する

➡ マスターカメラの液晶モニターに、検出したスレーブカメラの台数が表示されます。

8 接続する

- マスターカメラと、すべてのスレーブカメラで［OK］を選びます。

➡ 接続確認画面が表示されます。

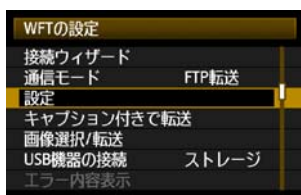
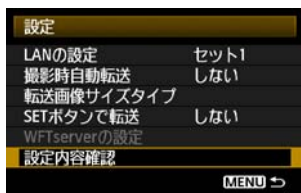
- 設定した内容はカメラに保存されます。WFT-E5 には保存されません。

スレーブカメラを配置する

- マスターカメラから見通しがよく、あいだに障害物のない場所にスレーブカメラを配置します。
- スレーブカメラの全周囲約100m以内に配置することができます。なお、配置条件や周囲の環境、気象条件などの無線通信状態により、連動撮影できる距離が短くなることがあります。
- マスターカメラのレリーズタイミングよりも、少し遅れてスレーブカメラがレリーズします（同時には撮影できません）。

- 連動撮影では、AEロックボタンと絞り込みボタンを押したときにも、シャッターボタン半押しと同じように、ピント合わせと測光が行われます。
- 一度接続を行ったマスターカメラとスレーブカメラは、電池交換などを行ってもその設定を記憶しています。
- 連動撮影から外したいスレーブカメラがある場合は、スレーブカメラの［**通信モード**］を［**通信切**］に設定します。

7

設定内容の確認／変更／保存／読み込み

設定内容を確認する

ネットワークの設定内容を確認することができます。

1 ［WFTの設定］で［設定］を選ぶ

2 ［設定内容確認］を選ぶ

➡ 設定内容が表示されます。

FTP転送・有線LANの設定例

設定内容確認 1 (1-3)
基本設定
通信モード FTP転送
LANの種類 有線LAN
MACアドレス 11:11:11:11:11:17
設定 セット4
セット名

設定内容確認 2 (1-3)
TCP/IP
IPアドレス設定 自動取得
0.0.0.0
サブネットマスク 0.0.0.0
ゲートウェイ 0.0.0.0
DNSサーバー 自動取得
IPsec 使わない

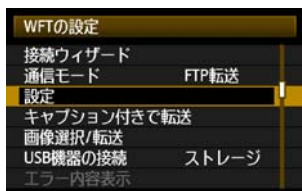
FTP転送・無線LANの設定例

設定内容確認 1 (1-4)
基本設定
通信モード FTP転送
LANの種類 無線LAN
MACアドレス 11:11:11:11:11:17
設定 セット1
セット名

設定内容確認 2 (1-4)
TCP/IP
IPアドレス設定 自動取得
0.0.0.0
サブネットマスク 0.0.0.0
ゲートウェイ 0.0.0.0
DNSサーバー 使わない
IPsec 使わない

設定内容確認 3 (1-4)
無線LAN
接続方法
インフラストラクチャー
SSID 26A9AACE5
チャンネル
認証方式 オープン
暗号方式 WEP

設定内容を変更する

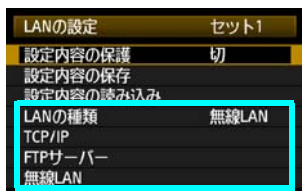
接続ウィザードで設定した内容を変更することができます。また、接続ウィザードでは設定できないIPセキュリティー（IPsec）の設定や、FTPサーバーに同名のファイルが転送されたときなどの設定を行うことができます。（p.76）

1 ［WFTの設定］で［設定］を選ぶ

2 ［LANの設定］を選ぶ

3 セット番号を選ぶ

- LANの設定を保存したセット番号を選びます。

4 ［設定変更］を選ぶ

- ［セット名変更］を選ぶと、セット名の入力と変更を行うことができます。

5 変更する項目を選ぶ

- ［LANの種類］、［TCP/IP］、［FTPサーバー］、［無線LAN］の中から該当する項目を選び、内容を変更します。

IPsecについて

［TCP/IP］の［セキュリティー］で設定します。
インターネットで暗号化通信を行なうための規格で、無線／有線LAN共に有効なセキュリティー機能です。この機能を使うためには、パソコンのネットワーク設定でIPsec機能を有効にする必要があります。本機のIPsecは、トランスポートモードのみのサポートで、暗号方式は「DES」、認証方式は「SHA1」を使用しています。なお、設定画面の［接続先のアドレス］には、接続するパソコンのIPアドレスを設定してください。

転送先フォルダの階層について

［FTPサーバー］の［転送先フォルダの階層］で設定します。
［カメラ］を選択すると、転送先のルートフォルダ内に、カメラと同じ「A/DCIM/100EOS7D」というようなフォルダ階層を自動作成して、その中に画像を保存します。なお、［転送先フォルダ］の設定でルートフォルダの下にフォルダを作成しているときは、そのフォルダの中に「A/DCIM/100EOS7D」というようなフォルダ階層を自動作成して、その中に画像を保存します。
［初期設定］を選択すると、転送先のルートフォルダを開いたところに画像を保存します。なお、［転送先フォルダ］の設定でルートフォルダの下にフォルダを作成しているときは、そのフォルダの中に画像を保存します。

同名ファイルの上書きについて

［FTPサーバー］の［同名ファイルの上書き］で設定します。

同名ファイルの上書きをしない設定にしている場合

FTPサーバーの保存先フォルダに同名ファイルが存在する場合は、ファイル名の最後にアンダーバー付きの数字（例：IMG_0003_1.JPG）が付けられて保存されます。

転送失敗画像を再転送する場合

同名ファイルの上書きをする設定で、転送失敗画像を再転送すると、上書き保存されない場合があります。この場合は、ファイル名の最後にアンダーバー付きのアルファベットと数字（例：IMG_0003_a1.JPG）が付けられて保存されます。

パッシブモードについて

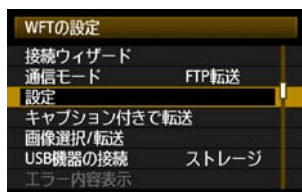
［FTPサーバー］の［パッシブモード］で設定します。
ネットワーク環境の中にファイアウォールが設置されているときに設定します。「エラー41：FTPサーバーに接続できません」という状態のときに、パッシブモードを［使う］設定にすると、FTPサーバーに接続できることがあります。

設定内容が変更できないようにする

LANの設定内容を不用意に変更されたくないときは、［設定内容の保護］を［入］に設定します。

設定内容の保存と読み込み

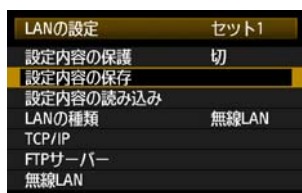
ネットワークの設定をCFカードに保存して、ほかのカメラに適用することができます。

設定内容を保存する

1 [WFTの設定] で [設定] を選ぶ

2 [LANの設定] を選ぶ

3 セット番号を選ぶ

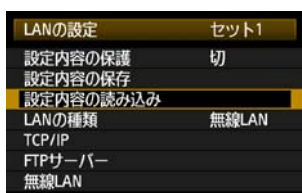
● LANの設定を保存したセット番号を選びます。

4 [設定変更] を選ぶ

5 [設定内容の保存] を選ぶ

6 **［保存］を選ぶ**

➡ CFカードに設定内容が保存されます。
- 設定内容のファイル「WFTNPF**.NIF」は、CFカードを開いたところ（ルートディレクトリ上）に保存されます。
- ファイル名は、WFTNPF01～99.NIFまでカメラが自動的に設定します。［**ファイル名を変更**］を選ぶと、ファイル名を任意に設定することができます。

設定内容を読み込む

CFカードに保存されている設定内容を読み込みます。ソフトウェアで作成した通信設定用ファイルを読み込むときにもこの操作を行います。
設定内容は、CFカードを開いたところ（ルートディレクトリ上）に保存しておいてください。

1 **［設定内容の読み込み］を選ぶ**

2 **設定ファイルを選ぶ**

➡ 使用するネットワーク環境に合った設定ファイルを選びます。

3 **設定ファイルを読み込む**

➡ 選択しているセット番号に、設定ファイルの内容が読み込まれます。

8

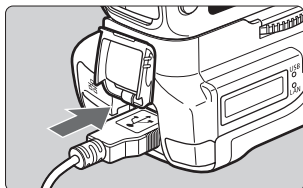
外部メディアを使う

USB接続の外部メディア（市販品）を、CFカードと同じように扱うことができます。また、CFカードに記録された画像のバックアップを行うことができます。

なお、使用できる外部メディアは、下記の条件を備えている必要があります。

- USBマスストレージクラスの製品を使用してください。
- ハードディスクタイプの外部メディアは、自己電源（セルフパワー）で作動するものを使用してください。バスパワーでは動作しない場合があります。
- 画像が記録される基本領域がFAT16、またはFAT32でフォーマットされたものを使用してください。
- 画像が記録される基本領域が、容量1TB（テラバイト）未満で、1セクタ512バイトの製品を使用してください。
- カードスロットを備えた外部メディアは使用できません。

外部メディアを接続する

外部メディアをWFT-E5に接続する前に、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしておきます。また、電源を備えた外部メディアは電源スイッチを切っておきます。
外部メディアとの接続には、必ずカメラに付属しているUSBケーブルを使用してください。
WFT-E5のUSB端子は、いつでも抜き差しできるホットプラグではありません。USB端子を抜き差しするときは、この項で説明する操作方法でUSB端子を抜き差ししてください。

1 外部メディアのUSB端子を接続する

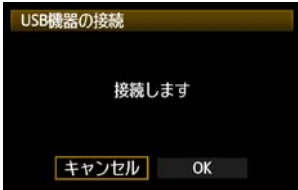
- 端子カバーを開いて接続します。
- USBハブなどを介して接続しないでください。
- 電源を備えている外部メディアは、接続後に電源スイッチを入れます。

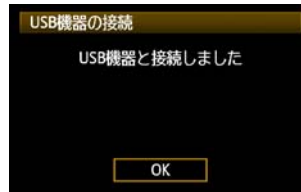
2 ［WFTの設定］で［USB機器の接続］を選ぶ

- 無線／有線LANを併用しないときは、［**通信モード**］を［**通信切**］に設定しておきます。

3 ［ストレージ］を選ぶ

4 ［接続］を選ぶ

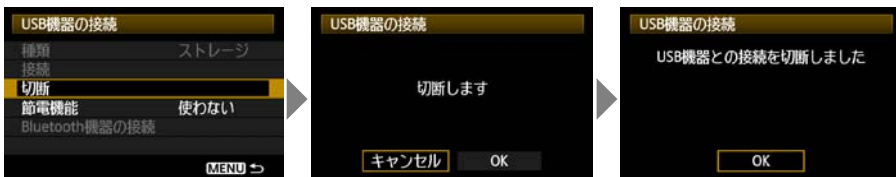
WFT-E5の電池を交換するときは、WFT-E5の電池室ふたを開ける前に必ずカメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしないままWFT-E5の電池室ふたを開けると、外部メディアとの接続操作を再度やり直す必要があります。

5 ［OK］を選ぶ

- **接続が完了するまで撮影やメニュー表示、画像再生などのカメラ操作はできません。**
- 外部メディアとの接続が完了すると、WFT-E5の〈USB〉ランプが緑色に点灯して、接続完了画面が表示されます。
- 接続完了画面で［OK］を選びます。

⇒ 外部メディアを取り外す際に使用する［切断］が有効になります。

⇒ メニューを終了すると、背面表示パネルに外部メディア接続表示が表示されます。

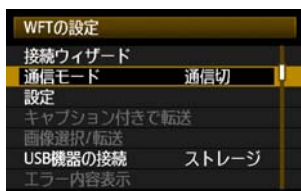
外部メディアの初期化は、カメラではできません。パソコンなどを使い、FAT16、またはFAT32で初期化してください。

外部メディアのUSB端子を抜くときは

外部メディアのUSB端子を抜く前に、必ず手順5で表示される［**切断**］を選択し、表示される手順に従って接続を解除してください。

カメラと外部メディアの電源スイッチを切っても接続状態は解除されません。接続状態でUSB端子を抜いたときは、再度USB端子を接続し、上記の手順で接続状態を解除してください。

外部メディアへの電源供給について

WFT-E5のUSB端子は、電源供給機能を備えており、必要に応じて電源供給が行われますが、ハードディスクタイプの外部メディアを接続すると動作できない場合があります。

節電機能について

- 無線／有線LANを併用しないときは、［**通信モード**］を［**通信切**］に設定しておきます。［**通信切**］以外の設定になっていると、節電機能が働かないため、カメラの電池が早くなくなります。

- ［**節電機能**］を［**使う**］に設定すると、外部メディアへの電源供給を自動的に止めて、カメラの電池を節約することができます。撮影すると、自動的に電源供給を再開し、撮影した画像を記録します。

動画撮影を行うときは［**節電機能**］を［**使わない**］に設定し、〈**USB**〉ランプが緑色に点灯している状態で動画撮影を開始してください。〈**USB**〉ランプが消灯、または点滅している状態で動画撮影を開始すると、外部メディアに動画が記録されない場合があります。

撮影時の記録メディアにする

USB接続した外部メディアに画像を記録します。CFカードがカメラに装填されていなくても、外部メディアに画像が記録されます。
また、外部メディアの中に、画像を保存するDCIMフォルダを任意に作成することもできます。
ハードディスクに動画を記録するときは、書き込み速度の速いハードディスクを使用してください。

1 ［ ］タブの［記録機能とメディア選択］を選ぶ

2 ［記録·再生］の［ ］（外部メディア）を選ぶ

➡ ［**DCIMフォルダ保存先**］画面が表示されます。DCIMフォルダは、画像が保存されるフォルダを入れるためのフォルダです。

● 初期設定の［/］を選んで〈MENU〉ボタンを押すと、外部メディアを開いたところ（ルートディレクトリ上）にDCIMフォルダが作成されます。撮影すると、外部メディアのDCIMフォルダの中に画像が保存されます。

3 記録画質を選ぶ

外部記録メディアを選んだときの記録画質は、CFカードのときと同じ記録画質が設定されています。
記録画質の変更は、［ ］タブの［**記録画質**］で行います。

カメラの電源を入れ直したときや、オートパワーオフから復帰したときなどは、一時的に〈USB〉ランプが緑色に点滅しますが、撮影（動画撮影は除く）は可能です。この状態で撮影した画像は、一旦カメラの内部メモリーに保存され、〈USB〉ランプが緑色に点灯してから外部メディアへ書き込まれます。

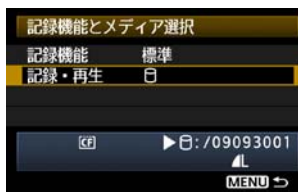
[フォルダ作成] について

[**フォルダ作成**] を選ぶと、外部メディアの中にDCIMフォルダを保存するためのフォルダを任意に作ることができます。撮影日別にDCIMフォルダを分けたいときなどに効果的です。

1 [フォルダ作成] を選ぶ

2 フォルダ名を確認する

- 初期設定のフォルダ名は、今日の日付け（西暦下二桁の年月日）と、フォルダの作成順01～99の数字で構成されています。
- このフォルダ名でよいときは〈MENU〉ボタンを押します。

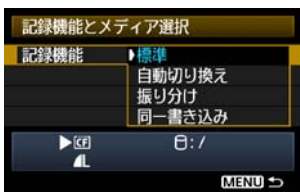
➡ 作成したフォルダが選択された状態になります。

- フォルダ名を変更するときは、必ず8文字で構成してください。フォルダ名の入力方法は、「仮想キーボードの操作方法について」（p.31）を参照してください。

画像消去について

メニュー [▶] タブの [**画像消去**] で [**カード内･全画像**] を選ぶと、「外部メディア内の全画像（🔑画像除く）を消去します」と表示されますが、実際に消去されるのは上記の [**DCIMフォルダ保存先**] で指定されているフォルダ内の全画像です。

CFカードと併用する

USB接続した外部メディアと、カメラに装填したCFカードを併用して、様々な画像記録を行うことができます。なお、下記の［**記録機能**］で行った設定は、全自動モードとクリエイティブ全自動モードでは無効になりますのでご注意ください。

1 ［ ］タブの［記録機能とメディア選択］を選ぶ

2 ［記録機能］を選ぶ

- 下記の「［**記録機能**］の内容について」を参考にして内容を選びます。
- 各内容の記録画質は、［ ］タブの［**記録画質**］で選びます。

［記録機能］の内容について

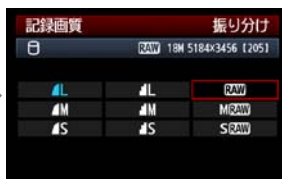
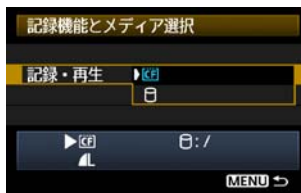
● 標準

［**記録・再生**］で選択したメディアに画像が記録されます。

● 自動切り換え

［**記録・再生**］で選択したメディアに画像が記録され、空き容量がなくなると自動的にもう一方のメディアに画像が記録されます。

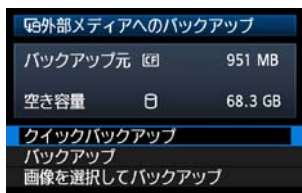
● 振り分け

1回の撮影で、CFカードと外部メディア両方に画像が記録されます。［ ］タブの［**記録画質**］を選ぶと、CFカードと外部メディアそれぞれに記録する画質を選ぶことができます。この設定を行うと、WFT-E5の表示パネルに、外部メディアに記録される画質が表示されます。

● 同一書き込み

1回の撮影で、同じ画像がCFカードと外部メディア両方に記録されます。
動画の［**同一書き込み**］はできません。動画は、［**記録・再生**］で選択したメディアに記録されます。

バックアップメディアにする

CFカードに記録されている画像を、外部メディアにバックアップすることができます。

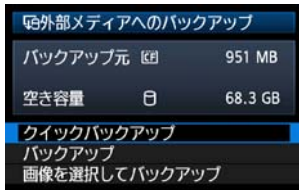
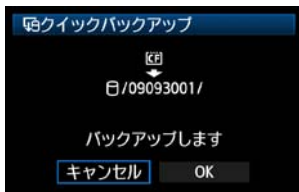
1 ［▶̇］タブの［外部メディアへのバックアップ］を選ぶ

2 バックアップの内容を選ぶ

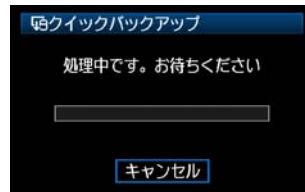
3 メモリー容量を確認する

- ［**クイックバックアップ**］と［**バックアップ**］では、外部メディアの空き容量が、CFカードの使用容量よりも大きいことを確認します。外部メディアの空き容量の方が小さいとバックアップできません。

- 外部メディアからCFカードへのバックアップはできません。
- バックアップ先の同一番号のフォルダに、同じ画像番号の画像が記録されているときは、［**スキップしてバックアップ**］［**上書きバックアップ**］［**バックアップ中止**］が表示されます。バックアップ方法を選んで〈SET〉を押します。
  - ・［**スキップしてバックアップ**］：番号が重複する画像だけバックアップされません
  - ・［**上書きバックアップ**］：番号が重複する画像は、バックアップ画像に書き換えられます
- バックアップ実行中は、撮影できません。［**キャンセル**］を選んでから、撮影してください。

クイックバックアップ

簡単な手順でバックアップすることができます。[**クイックバックアップ**] では、外部メディアを開いたところ（ルートディレクトリ上）に、今日の日付けのフォルダが自動的に作られ、その中に画像が記録されているDCIMフォルダを保存します。

1 [クイックバックアップ] を選ぶ

2 [OK] を選ぶ

➡ バックアップが始まります。

● 終了画面が表示されたら [OK] を選びます。

DCIMフォルダの保存先について

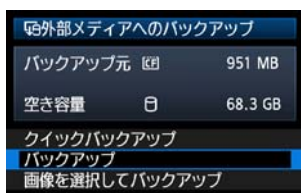
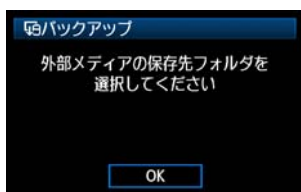
● [/**09083101**/] は、DCIMフォルダの保存先フォルダを示しています。

● 保存先のフォルダ名は、今日の日付け（西暦下二桁の年月日）と、フォルダの作成順01～99の数字で構成されています。

● 左記の場合は、外部メディアを開いたところ（ルートディレクトリ上）に「09083101」フォルダができて、その中にDCIMフォルダが保存されます。

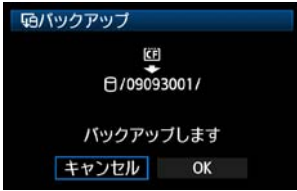
● [**バックアップ**] で表示される保存先のフォルダ名も同様です。

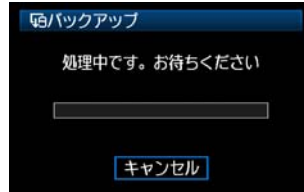
バックアップ

［**バックアップ**］では、外部メディアの中にバックアップ用のフォルダを任意に作成し、選んだフォルダの中に画像が記録されているDCIMフォルダを保存することができます。また、そのフォルダ名を任意に付けることができます。そのほかの機能は［**クイックバックアップ**］と同じです。

1 ［バックアップ］を選ぶ

2 ［OK］を選ぶ

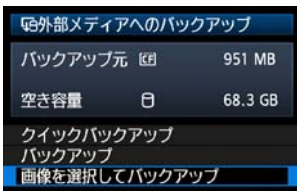
3 ［フォルダ作成］を選ぶ

4 ［フォルダ名］を設定する

- フォルダ名は、必ず8文字で構成してください。
- フォルダ名の入力方法は、「仮想キーボードの操作方法について」（p.31）を参照してください。

5 [OK] を選ぶ

➡ バックアップが始まります。

● 終了画面が表示されたら［OK］を選びます。

画像を選択してバックアップ

必要な画像だけを選択して外部メディアにバックアップすることができます。

1 [画像を選択してバックアップ] を選ぶ

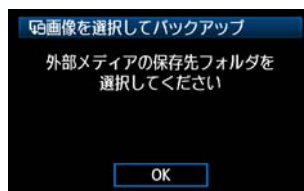
2 バックアップする画像を選ぶ

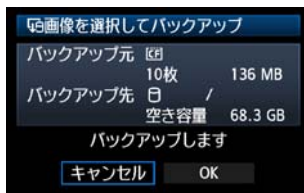
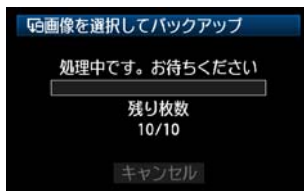
● 〈◎〉を回して画像を選び、〈SET〉を押します。

➡ バックアップする画像の左上に〈✓〉が表示されます。

● 〈🔍-〉ボタンを押すと３枚表示になります。〈🔍+〉ボタンを押すと１枚表示に戻ります。

● バックアップする画像の選択が終わったら〈⇄〉ボタンを押します。

➡ 表示される画面で［OK］を選びます。

3 ［/］を選んで〈MENU〉ボタンを押す

➡ 表示される画面で［OK］を選びます。

➡ 画像のバックアップが始まります。

- 画像は、外部メディアを開いたところ（ルートディレクトリ上）にできるDCIMフォルダ内に入っています。
- 外部メディアの任意のフォルダにバックアップするときは、［**フォルダ作成**］を選びます。詳しくは、88ページ手順3、4を参照してください。

GPS 機器を使う

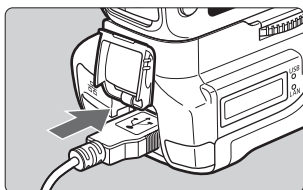
USB接続されたGPS機器（市販品）から「緯度、経度、標高、日付時刻」などの情報を取得して、画像情報として付加することができます。付加された情報は、カメラで確認できるだけでなく、GPS対応の市販地図ソフトで開いて撮影場所を確認することができます。

本機は、「GARMIN社GPSMAP、eTrexシリーズ」と「MAGELLAN社eXploristシリーズ」の中で、GPSの外部出力データが「NMEA 0183 Ver.3.0.1」、または「GARMINプロトコル」の一部製品を対象としています（2009年9月現在）。

対象となる具体的なGPS機器につきましては、弊社お客様相談窓口にお問い合わせください。

GPS機器の使用方法については、GPS機器の使用説明書を参照するか、そのメーカーにお問い合わせください。

GPS機器をUSBケーブルで接続する

GPS機器をWFT-E5に接続する前に、GPS機器とカメラの電源スイッチを切っておきます。
GPS機器との接続には、必ずカメラに付属しているUSBケーブルを使用してください。
WFT-E5のUSB端子は、いつでも抜き差しできるホットプラグではありません。USB端子を抜き差しするときは、この項で説明する操作方法でUSB端子を抜き差ししてください。

1 GPS機器のUSB端子を接続する

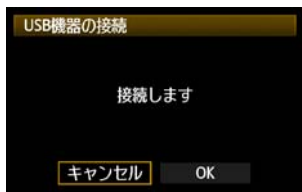
- 端子カバーを開いて接続します。
- USBハブなどを介して接続しないでください。
- **GPS機器の電源は、手順5まで入れないでください。**

2 ［WFTの設定］で［USB機器の接続］を選ぶ

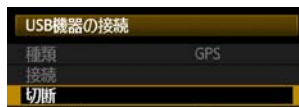
- 無線／有線LANを併用しないときは、［**通信モード**］を［**通信切**］に設定しておきます。

3 ［GPS］を選ぶ

4 ［接続］を選ぶ

WFT-E5の電池を交換するときは、WFT-E5の電池室ふたを開ける前に必ずカメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしてください。カメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしないままWFT-E5の電池室ふたを開けると、GPS機器との接続操作を再度やり直す必要があります。

5 ［OK］を選ぶ

- ［OK］を選んだあとでGPS機器の電源を入れます。
- GPS機器の接続には、数分かかることがあります。**接続が完了するまで撮影やメニュー表示、画像再生などのカメラ操作はできません。**
- GPS機器との接続が完了すると、WFT-E5の〈USB〉ランプが緑色に点灯して、接続完了画面が表示されます。
- 接続完了画面で［OK］を選びます。

⇨ GPS 機器を取り外す際に使用する［切断］が有効になります。

6 撮影する

- WFT-E5の〈USB〉ランプが緑色に点灯していることを確認して撮影します。
- **〈USB〉ランプが緑色に点灯していないときに撮影すると、正しいGPSデータが画像に付加されません。**

上から順に緯度、経度、標高、協定世界時

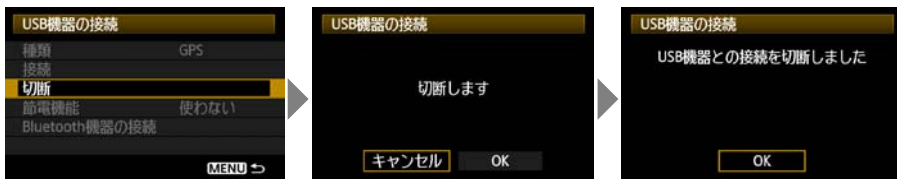
7 GPSデータを確認する

- 画像を1枚表示で再生します。
- 〈INFO.〉ボタンを押してGPSデータの撮影情報画面を表示します。

カメラの電源を入れ直したときや、オートパワーオフから復帰したときなどは、〈USB〉ランプが緑色に点灯するまで撮影しないでください。点滅中に撮影すると、正しいGPSデータが画像に付加されない場合があります。

表示される日付時刻は、GPS機器が取得した協定世界時（UTC：Coordinated Universal Time）で、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。なお、GPS機器によっては、設定した使用地域の日付時刻が表示されます。

GPS機器のUSB端子を抜くときは

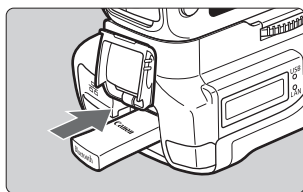
GPS機器のUSB端子を抜く前に、必ず手順5で表示される［**切断**］を選択し、表示される手順に従って接続を解除してください。

カメラとGPS機器の電源スイッチを切っても接続状態は解除されません。接続状態でUSB端子を抜いたときは、再度USB端子を接続し、上記の手順で接続状態を解除してください。

節電機能について

- 無線／有線LANを併用しないときは、［**通信モード**］を［**通信切**］に設定しておきます。［**通信切**］以外の設定になっていると、節電機能が働かないため、カメラの電池が早くなくなります。

GPS機器をBluetoothで接続する

USB端子にキヤノン製Bluetoothユニット BU-30を装着すると、Bluetooth®対応のGPS機器と無線で接続することができます（GPS機器以外は接続できません）。キヤノン製以外のBluetoothユニットを使用する場合は、正常に動作することを確認してから使用してください。Bluetoothユニットを WFT-E5に接続する前に、GPS機器とカメラの電源スイッチを切っておきます。

WFT-E5のUSB端子は、いつでも抜き差しできるホットプラグではありません。Bluetoothユニットを抜き差しするときは、この項で説明する操作方法でBluetoothユニットを抜き差ししてください。

1 Bluetoothユニットを接続する

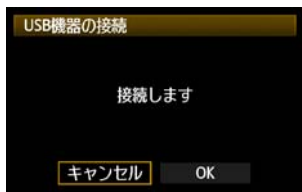
● 端子カバーを開いて接続します。

2 ［WFTの設定］で［USB機器の接続］を選ぶ

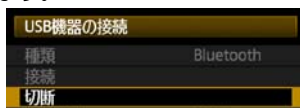
● 無線／有線LANを併用しないときは、［**通信モード**］を［**通信切**］に設定しておきます。

3 ［Bluetooth］を選ぶ

4 ［接続］を選ぶ

WFT-E5の電池を交換するときは、WFT-E5の電池室ふたを開ける前に必ずカメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしてください。カメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしないままWFT-E5の電池室ふたを開けると、Bluetoothユニットとの接続操作を再度やり直す必要があります。

5 ［OK］を選ぶ

- Bluetooth ユニットとの接続が完了すると、WFT-E5の〈USB〉ランプが緑色に点滅して、接続完了画面が表示されます。
- 接続完了画面で［OK］を選びます。

⇒ GPS 機器を取り外す際に使用する［切断］が有効になります。

6 GPS 機器と Bluetooth ユニットを無線で接続する

- GPS 機器の電源を入れ、GPS 機器の Bluetooth® 機能を有効にしておきます。
- ［Bluetooth機器の接続］を選びます。

⇒ 近くで稼動している Bluetooth® 機器の一覧が表示されますが、GPS機器以外は接続できません。

7 GPS機器を選ぶ

- 〈SET〉を押すとBluetooth®機器の接続状態が表示されます。
- ［未接続］の状態で〈SET〉を押すと、近くで稼動しているBluetooth機器®の一覧が表示されます。
- 〈◎〉を回してGPS機器を選び、〈SET〉を押します。
- ［OK］選び〈SET〉を押します。
- GPS機器にBluetooth®のパスキーを設定しているときは、パスキーの入力画面が表示されますので、パスキーを入力してください。

⇒ GPS機器との接続を開始します。

- GPS機器の接続には、数分かかることがあります。**接続が完了するまで撮影やメニュー表示、画像再生などのカメラ操作はできません。**

8 接続完了画面で［OK］を選ぶ

● GPSの接続状態が、［**接続中**］に変わります。この状態で〈**SET**〉を押すと、GPS機器の切断を行うことができます。

9 撮影する

● WFT-E5の〈**USB**〉ランプが緑色に点灯していることを確認して撮影します。
● **〈USB〉ランプが緑色に点灯していないときに撮影すると、正しいGPSデータが画像に付加されません。**

上から順に緯度、経度、標高、協定世界時

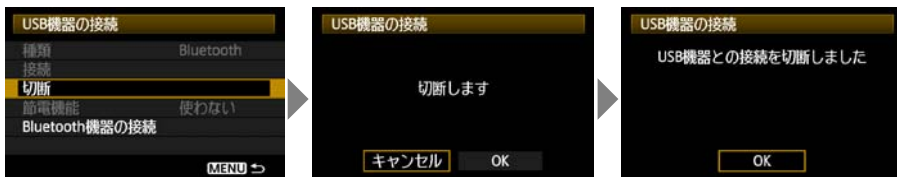
10 GPSデータを確認する

● 画像を1枚表示で再生します。
● 〈**INFO.**〉ボタンを押してGPSデータの撮影情報画面を表示します。

カメラの電源を入れ直したときや、オートパワーオフから復帰したときなどは、〈**USB**〉ランプが緑色に点灯するまで撮影しないでください。点滅中に撮影すると、正しいGPSデータが画像に付加されない場合があります。

表示される日付時刻は、GPS機器が取得した協定世界時（UTC：Coordinated Universal Time）で、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。なお、GPS機器によっては、設定した使用地域の日付時刻が表示されます。

Bluetoothユニットを USB端子から抜くときは

Bluetoothユニットを USB端子から抜く前に、必ず手順5で表示される［**切断**］を選択し、表示される手順に従って接続を解除してください。

カメラの電源スイッチを切ってもBluetoothユニットとの接続状態は解除されません。接続状態でBluetoothユニットを抜いたときは、再度Bluetoothユニットを接続し、上記の手順で接続状態を解除してください。

節電機能について

- 無線／有線LANを併用しないときは、［**通信モード**］を［**通信切**］に設定しておきます。［**通信切**］以外の設定になっていると、節電機能が働かないため、カメラの電池が早くなくなります。

10

トラブルシューティング

エラー表示の対応

カメラの液晶モニターにWFT-E5のエラーが表示されたときは、この章の対応例を参考にしてエラーの原因を取り除いてください。なお、エラー内容は、［ ］タブの［**WFTの設定**］→［**エラー内容表示**］でも確認できます。

下記のエラー番号をクリックすると該当ページにジャンプします。

11：接続先が見つかりません

● ペアリングソフトは起動していますか？
➡ ペアリングソフトを起動させて、再度接続操作を行ってください。（p.48）
● WFT-E5と無線LAN端末で、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？
➡ 暗号化の認証方式が［**オープン**］の設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをWFT-E5に設定してください。（p.26）

12：接続先が見つかりません

● 接続先のパソコンと無線LAN端末の電源は入っていますか？
➡ 接続先のパソコンと無線LAN端末の電源を入れてください。

21：DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

WFT-E5の確認内容

● WFT-E5の設定がネットワーク［自動設定］、またはIPアドレス［自動取得］になっています。この設定で間違いありませんか?
➡ DHCPサーバーを使用していない場合は、WFT-E5をネットワーク［**手動設定**］、またはIPアドレス［**手動設定**］にして設定を行ってください。（p.29）

DHCPサーバーの確認内容

● DHCPサーバーの電源は入っていますか？
➡ DHCPサーバーの電源を入れてください。
● DHCPサーバーから割り当てられるアドレスに余裕はありますか？
➡ DHCPサーバーが割り振るアドレスを増やしてください。
➡ DHCP サーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。
● DHCPサーバーは正常に機能していますか？
➡ DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
➡ ネットワーク管理者がいるときは、DHCP サーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

エラー 20番台の対応について
エラー 21～26が表示された場合は、以下の確認も行ってください。
WFT-E5と無線LAN端末で、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？
➡暗号化の認証方式が［**オープン**］の設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをWFT-E5に設定してください。（p.26）

22：DNSサーバーから応答がありません

WFT-E5の確認内容

● WFT-E5の設定がDNSアドレス［**自動取得**］、または［**手動設定**］になっています。この設定で間違いありませんか？

➡ DNSサーバーを使用していない場合は、WFT-E5をDNSアドレス［**使わない**］の設定にしてください。（p.29）

● WFT-E5に設定しているDNSサーバーのIPアドレスは合っていますか？

➡ 使用するDNSサーバーと同じIPアドレスをWFT-E5に設定してください。（p.29、115）

DNSサーバーの確認内容

● DNSサーバーの電源は入っていますか？

➡ DNSサーバーの電源を入れてください。

● DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか?

➡ DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。

● DNSサーバーは正常に機能していますか？

➡ DNSサーバーの設定を確認して、DNSサーバーとして正常に機能しているか確認してください。

➡ ネットワーク管理者がいるときは、DNSサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

● 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？

➡ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をWFT-E5に設定してください。（p.29、115）

➡ WFT-E5 を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

23：IPアドレスが重複しています

WFT-E5の確認内容

● WFT-E5と同じネットワークに接続している機器が、WFT-E5と同じIPアドレスを使用していませんか？

➡ WFT-E5のIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。

➡ DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、WFT-E5がIPアドレス［**手動設定**］の設定になっているときは、IPアドレス［**自動取得**］の設定にしてください。（p.29）

24：プロキシサーバーから応答がありません

WFT-E5の確認内容

● WFT-E5の設定がプロキシサーバー［使う］の設定になっています。この設定で間違いありませんか？

➡ プロキシサーバーを使用していない場合は、プロキシサーバー［使わない］の設定にしてください。（p.34）

● WFT-E5に設定しているプロキシサーバーの［アドレスの設定］と［ポート番号］は、プロキシサーバーと同じ設定になっていますか？

➡ プロキシサーバーと同じアドレス、ポート番号をWFT-E5に設定してください。（p.34）

● WFT-E5の［プロキシサーバー］の設定で、［サーバー名］だけを設定していませんか？

➡ WFT-E5にプロキシサーバーの［アドレス］が設定されていないときは、DNSサーバーのアドレスも一緒に設定してください。（p.29）また、使用するプロキシサーバーのサーバー名とポート番号が、間違いなく設定されているか確認してください。（p.34）

プロキシサーバーの確認内容

● プロキシサーバーの電源は入っていますか？

➡ プロキシサーバーの電源を入れてください。

● プロキシサーバーは正常に機能していますか？

➡ プロキシサーバーの設定を確認して、プロキシサーバーとして正常に機能しているか確認してください。

➡ ネットワーク管理者がいるときは、プロキシサーバーのアドレス、またはサーバー名とポート番号を聞いて、その内容をWFT-E5に設定してください。

ネットワーク全体の確認内容

● 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？

➡ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をWFT-E5に設定してください。

➡ WFT-E5 を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

25：ほかの端末が、同じIPアドレスを設定しました

- WFT-E5と同じネットワークに接続している機器が、WFT-E5と同じIPアドレスを使用していませんか？

➡ このエラーは、WFT-E5がネットワークに接続している状態で、ほかの機器がWFT-E5と同じIPアドレスを設定してネットワークに接続してきたときに発生します。WFT-E5のIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。

26：DHCPサーバーから応答がありません

WFT-E5の確認内容

- WFT-E5の設定がネットワーク［**自動設定**］になっています。この設定で間違いありませんか？

➡ DHCPサーバーを使用していない場合は、WFT-E5の設定をネットワーク［**手動設定**］にしてください。（p.29）

DHCPサーバーの確認内容

- DHCPサーバーの電源は入っていますか？

➡ DHCPサーバーの電源を入れてください。

- DHCPサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか?

➡ DHCPサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。

- DHCPサーバーは正常に機能していますか？

➡ DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。

➡ ネットワーク管理者がいるときは、DHCP サーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？

➡ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をWFT-E5に設定してください。（p.29）

➡ WFT-E5 を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

31：USB接続が切断されました

● USB端子が抜けていませんか？
⇒ USB端子を差し込み、メニューの［**WFTの設定**］で［**USB機器の接続**］を選んで再接続してください。
● USB機器本体の電源を切りませんでしたか？
⇒ USB機器本体の電源を入れなおしてください。その後、メニューの［**WFTの設定**］で［**USB機器の接続**］を選んで再接続してください。

32：対応していないUSB機器です

● 外部メディア、GPS機器、Bluetoothユニット以外のUSB機器を接続しませんでしたか？
⇒ 外部メディア、GPS機器、Bluetoothユニットを接続してください。
● WFT-E5が対応していない外部メディアです。
⇒ カードスロットを備えた外部メディアには対応していません。また、USB　カードリーダーも使用できません。
● 外部メディアはFAT16、またはFAT32でフォーマットされていますか？
⇒ パソコンを使い、FAT16、またはFAT32でフォーマットしてください。
● WFT-E5が対応していないGPS機器です。
⇒ GPS機器は、弊社で動作確認済みのものを推奨します。

33：USB機器エラー

● 外部メディアのトラブルです。
⇒ 外部メディアが正常に動作するか、パソコンに接続して確認してください。

34：USB機器と接続できませんでした

● 外部メディア、GPS機器、Bluetoothユニット以外のUSB機器を接続しませんでしたか？
⇒ 外部メディア、GPS機器、Bluetoothユニットを接続してください。

41：FTPサーバーに接続できません

WFT-E5の確認内容

● WFT-E5に設定しているFTPサーバーのIPアドレスは合っていますか？
➡ FTPサーバーと同じIPアドレスをWFT-E5に設定してください。（p.34）

● WFT-E5と無線LAN端末で、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？
➡ 暗号化の認証方式が［**オープン**］の設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをWFT-E5に設定してください。（p.26）

● WFT-E5に設定しているFTPサーバー［**ポート番号設定**］は、FTPサーバーで設定しているポート番号と合っていますか？
➡ ポート番号は通常 21 で、WFT-E5、FTP サーバーとも同じポート番号を設定します。FTPサーバーのポート番号をWFT-E5に設定してください。（p.34）

● WFT-E5 で行っている FTP サーバーの設定で、［**サーバー名**］だけを設定している場合、DNSサーバーの設定も行っていますか？
➡ WFT-E5にFTPサーバーの［**アドレス**］が設定されていないときは、DNSサーバーを使用する設定にして、DNSサーバーのアドレスをWFT-E5に設定してください。（p.29）また、使用するFTPサーバーのサーバー名が、間違いなく設定されているか確認してください。（p.34）

FTPサーバーの確認内容

● FTPサーバーは正常に機能していますか？
➡ パソコンをFTPサーバーとして機能するよう設定してください。
➡ ネットワーク管理者がいるときは、FTP サーバーのアドレスとポート番号を聞いて、その内容をWFT-E5に設定してください。

● FTPサーバーの電源は入っていますか？
➡ FTP サーバーの電源を入れてください。省電力モードで電源が切れている可能性もあります。

● FTPサーバーに設定しているIPアドレスは、WFT-E5に設定しているFTPサーバーの［**アドレス**］と合っていますか？
➡ FTPサーバーに設定しているIPアドレスと、WFT-E5に設定しているFTPサーバーのIPアドレスを、同じ設定にしてください。（p.34）

● セキュリティソフトウェアのファイアウォールを有効にしていませんか？
➡ セキュリティソフトウェアによっては、ファイアウォールでFTPサーバーへの接続制限をかけている可能性があります。ファイアウォールの設定を変更して、FTPサーバーに接続できるようにしてください。
➡ WFT-E5の設定で［**パッシブモード**］を［**使う**］にすると、FTPサーバーに接続できる場合があります。（p.76）

- ブロードバンドルーターを介してFTPサーバーに接続していませんか？
  - ⇒ ブロードバンドルーターによっては、ファイアウォールでFTPサーバーへの接続制限をかけている可能性があります。ファイアウォールの設定を変更して、FTPサーバーに接続できるようにしてください。
  - ⇒ WFT-E5の設定で［**パッシブモード**］を［**使う**］にすると、FTPサーバーに接続できる場合があります。（p.76）
- Windows XP Service Pack 2以上をお使いの場合、［Windowsファイアウォール］でFTPサーバーに接続できない設定になっていませんか？
  - ⇒ Windowsファイアウォールを、FTPサーバーに接続できる設定にしてください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
  - ⇒ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をWFT-E5に設定してください。（p.29）
  - ⇒ WFT-E5 を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

42：FTPサーバーから接続を拒否されました

FTPサーバーの確認内容

- FTPサーバーが、特定のIPアドレスのみ接続を許可する設定になっていませんか？
  - ⇒ FTPサーバーの設定を変更して、WFT-E5に設定しているTCP/IPの［**IPアドレス**］で接続できるようにしてください。

43：FTPサーバーに接続できません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています。

FTPサーバーの確認内容

- FTPサーバーで設定している最大接続数を超えて接続していませんか？
  - ⇒ FTPサーバーに接続しているネットワーク機器を少なくするか、FTPサーバーの設定で最大接続数を増やしてください。

44：FTPサーバーから切断できません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています。

- FTP サーバーに対する接続解除が、何らかの理由でうまくいかないときに表示されるエラーです。
  - ⇒ FTPサーバーとカメラの電源を入れなおしてください。

45：FTPサーバーにログオンできません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています。

WFT-E5の確認内容

● WFT-E5に設定している［ログオン名］は正しいですか？
➡ FTP サーバーにログオンするログオン名を確認してください。また、大文字、小文字の使い分けも確認して、正しいログオン名をWFT-E5に設定してください。（p.35）
● WFT-E5に設定している［ログオン・パスワード］は正しいですか？
➡ FTP サーバーにログオン・パスワードが設定されているときは、大文字、小文字の使い分けも確認して、正しいログオン・パスワードをWFT-E5に設定してください。（p.35）

FTPサーバーの確認内容

● FTP サーバーのファイルアクセス権は、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定になっていますか？
➡ FTP サーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にしてください。
● FTP サーバーで転送先に指定されているフォルダの名称は、すべて ASCII 文字（p.31）で構成されていますか？
➡ フォルダ名をASCII文字で構成してください。

46：データセッションに対し、FTPサーバーからのリプライコードがエラーを示しています

FTPサーバーの確認内容

● FTPサーバーが接続を切断しました。
➡ FTPサーバーを再起動してください。
● FTP サーバーのファイルアクセス権は、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定になっていますか？
➡ FTP サーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にしてください。
● FTPサーバーの保存先フォルダにアクセス権を設定していませんか？
➡ WFT-E5から転送された画像が保存できるよう、FTPサーバーにある保存先フォルダのアクセス権を設定してください。
● サーバーの電源は入っていますか？
➡ サーバーの電源を入れてください。省電力モードで電源が切れている可能性もあります。
● FTPサーバーのハードディスクがいっぱいになっていませんか？
➡ ハードディスクの空き容量を増やしてください。

47：FTPサーバーから、画像ファイルの転送完了通知を取得できませんでした

● FTP サーバーからの転送完了通知を、何らかの理由で受けられなかったときに表示されるエラーです。

➡ FTPサーバーとカメラの電源を入れなおし、画像を再度転送してください。

51：Bluetooth機器との接続が切れました

● BluetoothユニットとGPS機器が離れすぎていませんか？

➡ GPS機器をBluetoothユニットに近付けてください。

● BluetoothユニットとGPS機器の間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？

➡ GPS機器をBluetoothユニットが見える位置に移動させてください。

● 何らかの理由で、BluetoothユニットとGPS機器の接続が切れ、再接続できない状態になっています。

➡ Bluetoothと同じ2.4GHz帯の電波（または電磁波）を使用する無線LAN機器やコードレス電話機／マイク、電子レンジなどが近くで使用されていると、接続が切れやすくなります。また、雨天や高湿度の状況でも接続が切れやすくなります。

● GPS機器の電源が切れていませんか？

➡ GPS機器の電源を入れてください。

52：Bluetooth機器が見つかりません

● GPS機器がBluetoothで接続できる状態になっていますか？

➡ GPS機器の電源を入れて、Bluetoothで接続できる状態にしてください。

● BluetoothユニットとGPS機器が離れすぎていませんか？

➡ GPS機器をBluetoothユニットに近付けてください。

● GPS機器の電源が切れていませんか？

➡ GPS機器の電源を入れてください。

53：Bluetoothのパスキーが違います

● BluetoothユニットとGPS機器で、同じパスキーを設定していますか？

➡ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しいパスキーをGPS機器とBluetoothユニットに設定してください。

54：Bluetoothのサービスがありません

● GPS機器がSPP（Serial Port）プロファイルに対応していません。

➡ GPS機器がSPP（Serial Port）プロファイルに対応しているか確認してください。

61：同じSSIDの無線LAN端末が見つかりません

- 無線LAN端末のアンテナとWFT-E5の間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？

⇒ 無線 LAN 端末のアンテナを、WFT-E5 からよく見える場所に移動させてください。（p.114）

WFT-E5の確認内容

- WFT-E5に無線LAN端末と同じSSIDを設定していますか？

⇒ 無線LAN端末のSSIDを確認して、同じSSIDをWFT-E5に設定してください。（p.25）

無線LAN端末の確認内容

- 無線LAN端末の電源は入っていますか？

⇒ 無線LAN端末の電源を入れてください。

- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているWFT-E5のMACアドレスを無線LAN端末に登録していますか？

⇒ 使用しているWFT-E5のMACアドレス（p.74）を無線LAN端末に登録してください。

62：無線LAN端末からの応答がありません

WFT-E5の確認内容

- WFT-E5が、インフラストラクチャーで通信する設定になっていませんか？

⇒ WFT-E5を、アドホックで通信する設定にしてください。

無線LAN端末の確認内容

- アドホックで通信するための無線LAN端末が近くにありますか？

⇒ アドホックに設定した無線LAN端末を、WFT-E5の近くに用意してください。

63：無線LANの認証に失敗しました

● WFT-E5と無線LAN端末で、同じ認証方式を設定していますか？

➡ WFT-E5で設定できる認証方式は、［**オープン**］、［**共有キー**］、［**WPA-PSK**］、［**WPA2-PSK**］です。（p.25）

➡ AirMacでインフラストラクチャーを行うときは、［**オープン**］では接続できません。WFT-E5に［**共有キー**］を設定してください。（p.25）

● WFT-E5と無線LAN端末で、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？

➡ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをWFT-E5と無線LAN端末に設定してください。（p.26）

● MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているWFT-E5のMACアドレスを無線LAN端末に登録していますか？

➡ 使用しているWFT-E5のMACアドレス（p.74）を無線LAN端末に登録してください。

64：無線LAN端末に接続できません

● WFT-E5と無線LAN端末で、同じ暗号化方式を設定していますか？

➡ WFT-E5で設定できる暗号化方式は、［**WEP**］、［**TKIP**］、［**AES**］です。（p.25）

● MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているWFT-E5のMACアドレスを無線LAN端末に登録していますか？

➡ 使用しているWFT-E5のMACアドレス（p.74）を無線LAN端末に登録してください。

65：無線LANの接続が切れました

● 無線LAN端末のアンテナとWFT-E5の間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？

➡ 無線　LAN　端末のアンテナを、WFT-E5　からよく見える場所に移動させてください。（p.114）

● 何らかの理由で、無線LANの接続が切れ、再接続できない状態になっています。

➡ 無線LAN端末にほかの端末からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合（IEEE 802.11b/g）、雨天や高湿度などの影響が考えられます。（p.114）

66：無線LANの暗号キーが違います

● WFT-E5と無線LAN端末で、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？

➡ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをWFT-E5と無線LAN端末に設定してください。（p.26）
なお、暗号化の認証方式が［オープン］の場合は、「エラー41：FTPサーバーに接続できません」が表示されます。

67：無線LANの暗号方式が違います

● WFT-E5と無線LAN端末で、同じ暗号化方式を設定していますか？

➡ WFT-E5で設定できる暗号化方式は、［WEP］、［TKIP］、［AES］です。（p.25）

● MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているWFT-E5のMACアドレスを無線LAN端末に登録していますか？

➡ 使用しているWFT-E5のMACアドレス（p.74）を無線LAN端末に登録してください。

68：無線LAN端末に接続できませんでした。始めからやり直してください。

● 無線LAN端末のWPS（Wi-Fi Protected Setup）ボタンは、無線LAN端末で指示されている時間押しつづけましたか？

➡ WPSボタンを無線LAN端末の使用説明書で指示されている時間押しつづけてください。

● 無線LAN端末のすぐ近くで接続操作をしていますか？

➡ 両方の機器にすぐ手が届く距離で接続操作を行ってください。

69：複数の無線LAN端末を検出したため、接続できませんでした。始めからやり直してください。

● ほかの無線LAN端末がWPS（Wi-Fi Protected Setup）のPBC方式（プッシュボタン接続方式）で接続操作を行っています。

➡ しばらく待ってから接続操作を行うか、PIN 方式（ピンコード接続方式）で接続操作を行ってください。（p.28）

71：スレーブカメラと接続できませんでした

● スレーブカメラの接続操作を正しく行っていますか？
⇒ 正しい手順でスレーブカメラを操作してください（p.70、71）。
● スレーブカメラとマスターカメラが離れすぎていませんか？
⇒ スレーブカメラをマスターカメラに近付けてください。

72：マスターカメラと接続できませんでした

● マスターカメラの接続操作を正しく行っていますか？
⇒ 正しい手順でマスターカメラを操作してください（p.70、71）。
● マスターカメラとスレーブカメラが離れすぎていませんか？
⇒ マスターカメラをスレーブカメラに近付けてください。

81：有線LANの接続が切れました

● LANケーブルはしっかり接続されていますか？
⇒ WFT-E5からサーバーにかけてのLANケーブルを接続しなおしてください。また、ケーブルが断線している可能性もありますので、別のケーブルを接続してみてください。
● ハブやルーターの電源は入っていますか？
⇒ ハブやルーターの電源を入れてください。
● サーバーの電源は入っていますか？
⇒ サーバーの電源を入れてください。省電力モードで電源が切れている可能性もあります。

99：その他のエラー

● エラー 11～81以外の異常が発生しました。
⇒ カメラの電源スイッチを入れ直してください。

無線LANでの注意事項

無線LANで使用しているときに「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

無線LAN端末、またはアンテナの設置場所について

- 室内で使用する場合、撮影している部屋に設置してください。
- WFT-E5よりも高い場所に設置してください。
- カメラとの間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。
- カメラにできるだけ近付けて設置してください。特に、雨天屋外で使用すると、電波が雨に吸収されて接続が途切れる場合があります。

近くにある電子機器について

下記の電子機器の影響で無線LANの通信速度が遅くなるときは、有線LANにすると問題を解消することができます。

- WFT-E5のIEEE.802.11b/gとBluetoothは、2.4GHz帯の電波を使用して無線LANを行っています。そのため、同じ周波数帯を使用する電子レンジやコードレス電話機／マイクなどを使うと無線LANの通信速度が遅くなります。
- WFT-E5と同じ周波数帯を使用する無線LAN機器が近くで稼動していると、無線LANの通信速度が遅くなります。

WFT-E5を複数使うときの注意

- 1つの無線LAN端末に複数のWFT-E5が接続するときは、カメラのIPアドレスが重複しないよう注意してください。
- 1つの無線LAN端末に複数のWFT-E5が接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b/gの無線LAN端末が複数あるときは、電波干渉を少なくするために、無線LANのチャンネルを、「1/6/11」、「2/7/12」、「3/8/13」というように4チャンネル分、間を開けてください。
  IEEE 802.11aが使用できるときは、IEEE 802.11aに切り換えて、異なるチャンネルを設定してください。

セキュリティーについて

- 無線LANの電波は、簡単に傍受できます。そのため、無線LAN端末の設定で電波の暗号化を行うことをおすすめします。

ネットワークの設定を確認する

Windows

Windowsの［スタート］ボタン→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］を選びます。ipconfig/allと入力して、〈Enter〉キーを押します。
パソコンに割り当てられているIPアドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーの情報が表示されます。
なお、29ページでカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。

Macintosh

Mac OS Xの［ターミナル］を開き、ifconfig -aと入力して〈Return〉キーを押します。［en0］項目［inet］の ***.***.***.*** がパソコンに割り当てられているIPアドレスです。
なお、29ページでカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。
*［ターミナル］については、Mac OS Xのヘルプを参照してください。

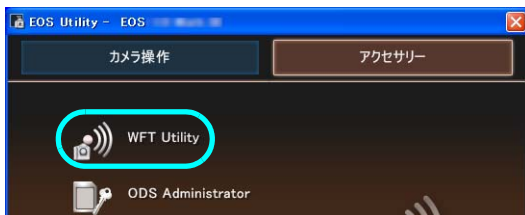
11

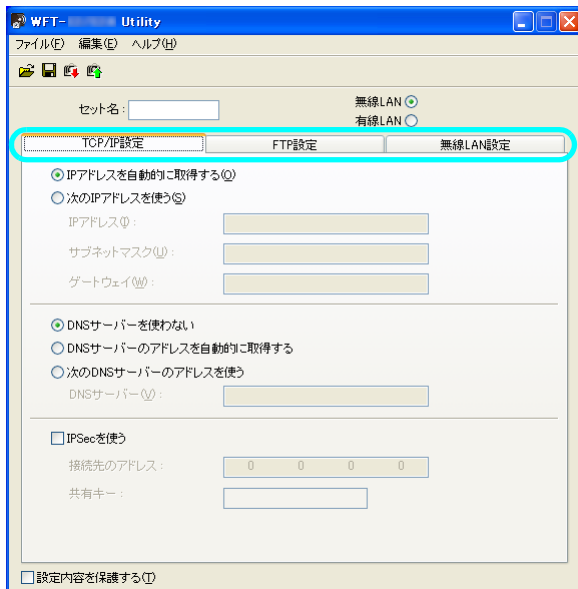
資料

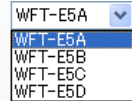
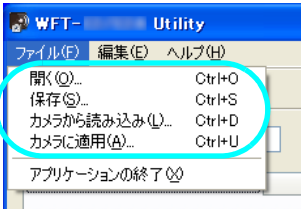
WFT Utility（ソフトウェア）について

カメラに付属のソフトウェア・WFT Utilityを使用すると、無線／有線LANの設定を行うことができます。カメラとWFT-E5が手元にないときに無線／有線LANの設定ファイルを作っておきたいときに有効です。
また、FTP転送で画像転送する際に画像に付加できるキャプションを作成することができます。
WFT Utilityは、EOS Utilityから起動します。

WFT Utilityを起動する

● EOS Utilityの［**アクセサリー**］からWFT Utilityを起動します。

無線／有線LANの設定を行う

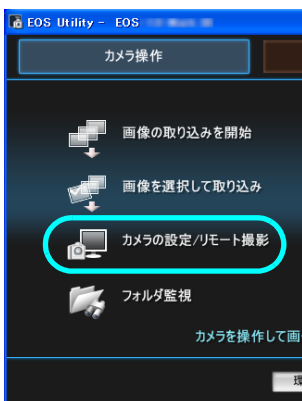
● WFT-E5の［**TCP/IP設定**］、［**FTP設定**］、［**無線LAN設定**］タブを選び、無線／有線LANの接続に必要な設定を行います。設定できる内容は、キャプションの作成を除き、カメラと同じです。

無線LANのチャンネル設定について

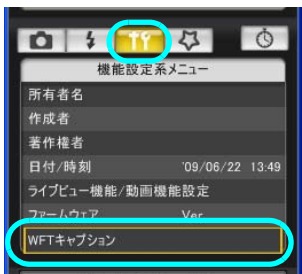
［**無線LAN設定**］タブで無線LANのチャンネルを設定するときは、始めに使用しているWFT-E5のタイプを選んでください。

無線／有線LANの設定ファイルについて

● 設定ファイルの利用方法を説明します。

開く	パソコンやCFカードに保存されている設定ファイルを開きます。
保存	設定ファイルをパソコンやCFカードに保存します。［**セット名**］がファイル名として使用されます。 CFカードに保存した設定ファイルをカメラに適用するときは、78ページを参照してください。
カメラから読み込み	カメラ内の設定ファイルをパソコンに読み込みます。カメラとパソコンをUSBケーブルで接続しておいてください。
カメラに適用	設定ファイルをカメラに適用します。カメラとパソコンをUSBケーブルで接続しておいてください。

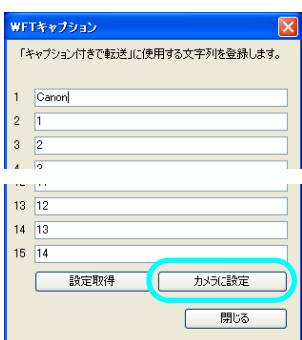
キャプションの作成と登録

「キャプション付きで転送する」（p.39）のページで説明した、キャプションを作成してカメラに設定します。キャプションの作成と登録は、EOS Utilityがインストールされたパソコンを使用して行います。

あらかじめ、WFT-E5をカメラに装着し、カメラに付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続しておきます。カメラとパソコンをUSBケーブルで接続する方法と、EOS Utilityの起動方法は、カメラに付属のソフトウェア使用説明書（PDF）を参照してください。なお、WFT-E5を装着していないカメラでは、キャプションの作成はできません。

1 EOS Utilityを起動して［カメラ設定／リモート撮影］を選ぶ

➡ カメラ設定／リモート撮影画面が表示されます。

2 ［ ］タブの［WFTキャプション］を選ぶ

➡ キャプション作成画面が表示されます。

● ［**設定取得**］を選ぶと、カメラに設定されているキャプションデータを取得します。

3 キャプションを入力する

● ASCII（アスキー）文字を31文字まで入力できます。

4 キャプションをカメラに設定する

● ［**カメラに設定**］を選ぶと、作成したキャプションがカメラに設定されます。

主な仕様

■ 型式

型式..............................無線LAN、およびEthernet有線LAN対応、画像転送アクセサリー（IPsec対応）。外部メディア、GPS機器、BluetoothユニットのUSB接続可能。縦位置撮影用操作部材装備

■ 無線LAN

準拠規格......................IEEE802.11a（WFT-E5A/B/C）、ARIB STD-T71
IEEE802.11b、ARIB STD-T66
IEEE802.11g、ARIB STD-T66

伝送方式......................OFDM変調方式（IEEE802.11a、IEEE802.11g）
DS-SS変調方式（IEEE802.11b）

通信距離......................約150m
* 送受信アンテナ間に障害物、遮蔽物がなく、他の機器との電波干渉がない場合
* アクセスポイントに高性能大型アンテナを設置している場合

送信周波数（中心周波数）..................
WFT-E5A：5180～5320MHz：36～64ch
5745～5825MHz：149～165ch
2412～2462MHz：1～11ch
WFT-E5B：5180～5320MHz：36～64ch
5500～5700MHz：100～140ch
2412～2472MHz：1～13ch
WFT-E5C：5745～5805MHz：149～161ch
2412～2472MHz：1～13ch
WFT-E5D：2412～2462MHz：1～11ch

接続方法......................インフラストラクチャーモード、アドホックモード
* Wi-Fi Protected Setup対応

セキュリティー...........認証方式：オープン、共有キー、WPA-PSK、WPA2-PSK
暗号化：WEP、TKIP、AES

■ 有線LAN

準拠規格......................IEEE802.3u（Ethernet 10BASE-T、100BASE-TX）

■ USB接続

接続機器......................外部メディア、GPS機器、Bluetoothユニット

■ インターフェース

カメラ接続用...............拡張システム端子
有線LAN用.................Ethernet用RJ-45端子
外部機器用..................Hi-Speed USB端子（外部メディア、GPS機器、Bluetoothユニット接続用）

■電源

使用電池......................バッテリーパックLP-E6、1個使用
電池チェック..............自動
転送可能枚数

約［枚］

LAN	常温（23℃）	低温（0℃）
無線LAN	2300	2300
有線LAN	3000	3000

* フル充電のLP-E6使用時。常温（23℃）、低温（0℃）とも転送可能枚数は、ほぼ同じです。
* CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準に準じた条件で、約6MBの画像を撮影時自動転送した場合。
* 無線LANで連続して画像転送を行うと、転送可能枚数が少なくなります。
* 外部メディアやGPS機器をバスパワーで動作させると、転送可能枚数が少なくなります。

■大きさ・質量

大きさ..........................147.4（幅）×45.0（高さ）×76.8（奥行）mm
質量..............................約355g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度..............0℃～40℃
使用可能湿度..............85%以下

● 記載データはすべて当社試験基準によります。
● 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

電波に関するご注意

- 本製品には、電波法に基づく認証を受けた無線装置が内蔵されており、証明ラベルは無線設備に添付されています。
- 本製品のうち、外国為替、および外国貿易法の規定により、戦略物資等（または役務）に該当するものについては、日本国外への輸出に際して、日本国政府の輸出許可（または役務取引許可）が必要です。

電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

①この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。

②万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談窓口にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談下さい。

③その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談窓口へお問い合わせ下さい。

2.4 DS/OF 4

この表示のある無線機器は2.4GHz帯を使用しています。変調方式としてDS-SS変調方式、およびOFDM変調方式を採用し、移動体識別装置の構内無線局に対して想定される与干渉距離は40mです。全域帯を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。

- 本製品は、他の電波を発する機器（電子レンジ、Bluetooth 機器など）から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠く離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。

妨害電波自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

索　引

電源と撮影関連

英数字

か

た

は

無線／有線LAN機能

英数字

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

USB接続機能

英数字

あ

か

さ

た

は

ま

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理については、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店、またはお客様相談窓口、修理受付窓口にお問い合わせください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社
canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2009年9月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、サービス窓口にお問い合わせください。

CT1-7833J-001